

千曲会報 No. 169

編集発行人 小山 長 雄
発行所 社団法人 千曲 会

長野県上田市常入 信州大学繊維学部
振替 長野 6243, 東京 43341
電話 上田(2)1215(代表), (2)1218(直通)



鈍 刀 乱 麻 (4)

——養蚕関係者への生物学的干渉——(その3)

こやま・ながお

カイコはどのように進化しているか(承前)

前号で、私はカイコの進化を述べるにあたり、まず問題を一般化するために、人間進化のあらすじをたどってみました。その順路は私流ではありましたが、要約するとA~Fのようになりました(前出)。今回はそれらを媒介としてカイコの進化に敷衍してみようと思います。

2) カイコの進化的位置づけ

カイコは昆虫という無脊椎動物節足動物門の中でどんな進化的位置にあるでしょうか。カイコはモンシロチョウやアゲハチョウなどと同じ鱗翅目 Lepidoptera に属する完全変態昆虫であることは小学生でも知っています。ですから、直翅目(バッタ類)・蜻蛉目(トンボ類)・半翅目(セミ類)などの不完全変態昆虫より上位にランクされることはもちろんです。

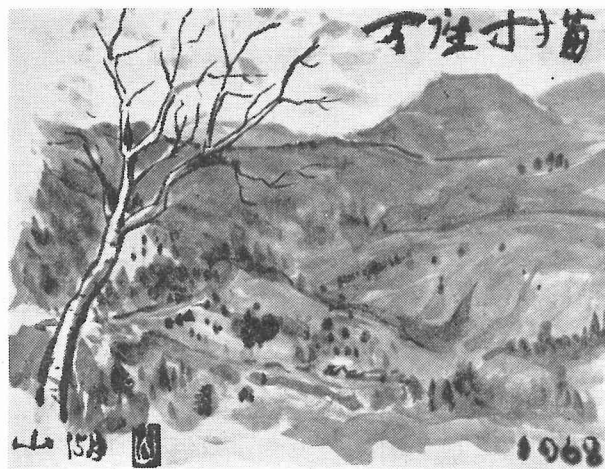
カイコは昆虫のなかで

人間が自由に飼養できるほとんど唯一の昆虫ですから、見方によっては進化しているといえましょう。ですが、前述したように進化は脳の情報容量の増大を指標とするのが常識ですから、全体的には正しい評価とはいえないと思います。

では、昆虫の中でもっとも進化度の高いのはなにかとていいますと、それは膜翅目(ハチ・アリ類)でしょう。脳の発達分化がいちじるしく、ご存じのようかなり高等な社会生活を営みます。ミツバチについて、フォン・フリッシュ博士はおどろくべき事実を発見しました。かれらには意志伝達の「ことば」があるということです。それはもちろん音声によるものではありません。いわゆる

「収穫ダンス」というもので「身振り手振り」の信号です。ミツバチは蜜源をみつけると、巣に帰ってきて仲間との密集する垂直の巢面でダンスを始めます。ダンサーにぶちあたった仲間は興奮し、そのあとにつづき、まずダンサーの体から花の香りをかぎとります。ダンスは輪舞です。ところがこの踊りの輪の中心線は蜜源の方向を示し、ダンスの速さは蜜源の距離を示しているのです(図1)。そこで、花の種類とその方向・距離が知れますの

で、仲間は信号にしたがって難なく蜜源にとんでいくわけなのです。仲間同志のコミュニケーションは蚊やコオロギのように音によるものもあり、ゴキブリのように排泄物の臭いによるものもありスジグロチョウ(香鱗)やカイコ(誘引腺)のように体臭によるものもあり、種々多様ですが、ミツバチのように視覚器官(形態視や運動視)を通



じてなされるものは高等な伝達方式といわねばなりません。情報の導入は匂いでもできます。でも複雑なものは形成が困難でしょう。音も同様です。匂いよりも高低・音質等を組み合わせることによってかなり複雑な情報を送りこむことができます。しかし形態に訴えるものの比較になりません。人間の文化が視覚(文字など)に85%以上依存したことを思えば、この辺のことは了解されることと思います。だから、ミツバチはいちじるしく進化した昆虫といわざるをえません。ミツバチは●だの■だの※印などの形を見分ける能力がありますのに、カイコはとてもそんな能力はもちあわせません。

さて、系統的範囲をいっそうしばって、鱗翅目内での

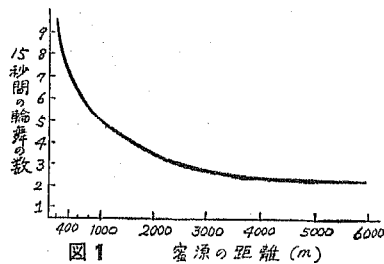


図1 蜜源の距離 (m)

カイコガ科 Bombycidae の位置づけをしらべてみましょう。鱗翅目はトビケラ（毛翅目）にごく近い下等の同脈亜目とそれより高等な異脈亜目に分けられています。もちろん、カイコは後者に属しますが、いわゆる蝶類より下等です。多少の例外はありますが、昼間活動する昆虫は夜間活動するものより高等です。カイコは蛾類ですからチョウチョウよりはずっと下等です。それは先刻いった脳の発達をみてもよくわかりますし、眼玉の構造をみても明らかです。いま視覚器の進化度からカイコガ上科の系統的位置をみますと図2のようになります。アゲハチョウ上科 Papilionoidea（蝶類といっぱんにいわれるもの）が最高位で、次がセセリチョウ上科 Hesperioidea で、その次がスズメガ上科 Sphingoidea で、第4位にカイコガ上科 Bombycoidea が位置します。いわゆる野蚕のヤマモリガ上科 Saturnioidea にはごく近いがやや進化しているといったところです。カイコガ上科にはガバ科・カレハガ科・カイコガ科などがふくまれます。

このうちではカイコガ科はもっとも進化しているといえましょう。カイコガ科のなかではカイコがクワゴやオオクワゴモドキ・カギバモドキなどより進化しているというのが常識です。では、カイコがクワゴより進化しているというメルクマールはどこなのでしょう。私は部分的進化圧がカイコに多くかかっているという証拠をあげたいと思います（前号D項）。部分というのはもちろん絹糸腺、いうなれば繭のことです。かくて、カイコはD法則にしたがって移動力を減少し（筋肉退化）、確保していた強い体内時計をあいまいにし、索餌行動や外圍抵抗性を弱めてしまったのです。こうした適応が進んでいるのはカイコがクワゴより進化しているという点だと思います。染色体が1本多いから——という人もありますが、それもひとつの指標といえます。

以上、カイコの位置づけを眺めてまいりましたが、カイコは意外に下等な昆虫だということがわかっていただけたと思います。そして、ここでなによりも心にとめなければならぬ点は、人間の手でカイコの進化圧は異常なまでに絹糸腺に指向されてきたということです。蒲生先生はカイコのことを奇しくも「箱入り娘」といいましたが、まったく行儀のよいムシができあがったものです。昆虫学者はカイコを皮肉って「飯も自分で食えないダラ

クした奴」と評します。カイコはまあよい意味の奇形昆虫といえはいえるでしょう。

繭の生物学的意義

カイコは絹糸腺増大の方向に淘汰され進化しましたがそれはなにを意味するのでしょうか。繭（絹糸腺と同義）についてしばらく考えてみましょう。

繭は蛹の時代の保護的役割を果たしています。蛹は卵と同様に昆虫の生育段階における無防備の消費形態です。つまり自らは栄養を摂取せず、ただ体内栄養を消費するだけのステージだからです。こうした蛹態は当然保護されねばなりません。アゲハチョウの蛹は帯蛹といってたった1本の糸で木の枝についています。繭とは義理にもいえません。しかし、その代わりに皮ふはいちじるしく堅固です。ハチの蛹は裸でまったく無防備です。その代わり、しっかりした六角の巣の中に入っています。ハエの蛹は幼虫体とほとんどちがいませんが、四蛹といって外皮が硬化し、しかも土中に深く潜入して保護されます。このように、繭はなくても他の代償的方法が獲得されているところがいかに自然の妙味といえましょう。

いわゆる絹糸虫類といわれる昆虫は、蛹期が繭という保護衣に包まれることを特徴としています。この保護衣も立派なものから粗末なもの種類によりずいぶんちがっていることは周知のとおりです。ヒメヤマモリやクスサンは孔あきのボロ着、ヤマモリやサクサンは風雨に耐えるしゅう酸石灰着、カレハガやクワゴはまるで綿入着というふうに。

ところで、繭は保護衣には相違ないでしょうが、サクサンやウスタバガなどとカイコやクスサンなどのそれとは価値はまるでちがうと思われます。前2者は蛹で越冬するのですし、後2者は卵で越冬するのですから、重要性は前者にあるといえましょう。冬の寒さに耐える必要もない後者の着衣の意味は、外敵の食害を避けるためと体表蒸散を防ぐためと思われます。

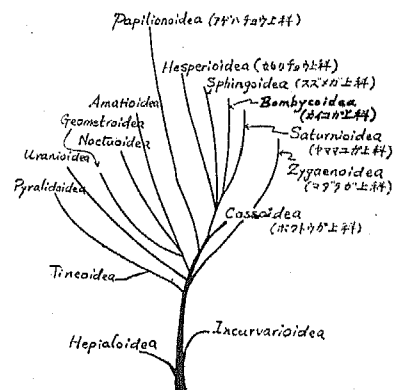


図2 視覚に立脚した鱗翅目系統図

では、繭はいったいどんな仕組みでできてるのでしょうか。しかし、私は吐糸機構について云々するつもりではありません。繭は生体そのものの進行上、絶対不可欠のものではないといいたいです。繭がなくても蛹からは蛾がでてきます。鱗片もそんな部類の器官です。つまり、生体では繭を一生懸命生産することは本義ではなく、ただ自己保護の用にたちさえすれば、そこへのエネルギーは最少限にいくとめたいところなのです。体内では生命保持のために絶対不可欠なものを利用し、それを子孫保存に供し、直接生命保持に関係のない代謝余剰物はただ捨て去らないで、うまく保護用に廻して、まったく無駄のない利用をしているというのが実態です。だから、野外できびしい自然の風雪を経験する野蚕ではそれを防ぐため皮ふに多くのエネルギーが費やされ、したがって繭は貧弱になっています。小泉清明先生によると、繭量の多いものは皮ふ保護部が薄く、繭量の少ないものは厚いという逆相関があるといわれます。

カイコは人間が保護します。したがって、カイコにとってほんとは繭なんかは無用の長物なのですが、人間は絹をえたいばかりに、保護に保護の手をさしのべ、他に余計なエネルギーを消費させないようにして、その代償としてこの代謝余剰物の淘汰に強烈な圧力を指向してカイコを作りあげたというべきでしょう。

繭は保護器官であり如上の因果関係によって生産されるものであることをしっかり認識しておくことが、以下私の述べるお話しの基本となります。(つづく)

新任のことば

白 樫 侃

千曲会のみなさまへこの紙上をかりまして一言ごあいさつを述べさせていただきます。

このたび柳沢先生のあとをうけて輝やかしい歴史のある本学部の学部長に任命せられましたことは私にとって光栄の至りでありますとともに、またこの重い任務に私のような非才の者がどのように対処できるか、卒直に



って、ずしんとこたえるのであります。

しかしながら、なんとしても私どもは全力をつくして本学部がこれからどのように発展すべきかという大問題と取り組んでいかなければならないのでありまして、それにはまず同窓のみなさまの絶大なお力添えを期待しなければなりません。

私自身はまことに浅才微力であります。幸いに本学部は、60年の光輝ある歴史に支えられて、多数の輝かしい研究業績がはぐくまれており、学問の殿堂としてはまことに恵まれた環境にあります。

同窓のみなさまおよび本学教職員の方々のご支援によりまして、この輝やかしい伝統を傷つけることのないよう任を全うしたいものと祈願致しております。

どうぞ幾重にもよろしくお願い申し上げます。

小湊潔博士の受賞

小湊潔博士(糸4回卒、現在理研化学工業社長)は45年に亘るニンニクに関連する研究にて紫授褒賞を昭和41年に授けられ、42年には、これらに関する研究で、日、英、米、仏、独、伊等の各国の特許を得られ、国際発明審議会に出品(ニューヨークコロシウム)の結果、世界第2位の銀賞を獲得されました。

心からお祝いとお喜びを申し上げます。同博士は、70余才の高年齢にもかかわらず、自ら研究に没頭しておられ、その間、社長としての多忙な業務にも励んでおられ、その熱意とご努力に対しては全く敬服の他ありません。

同博士の今後益々ご健祥にてご活躍されることをお祈りいたして止みません。(竹田寛記)



沖縄関ヶ原石枝

代表者 緑 間 武(昭三卒)

大 理 石・テラゾー製作販売
住 宅 石 積 工 事・文 字 彫 刻

本 社	那覇市前島町二の一〇七	電話⑧四七五〇・四三七六
第一工場	勝連村字平敷屋四の二九	電話⑧(与那城)七四
第二工場	那覇市繁多川一七	電話⑧六六九七
工場長	宮城盛秀	
営業部長	島袋貞雄	
工務部長	安里健一	
工場長	仲原好輝	

退 官 の 御 挨拶

柳 沢 延 房

爽やかな春の訪れと共に、各職場に御活躍の千曲会員の皆様には忙しい毎日をお送りのことと存じます。

この度私こと永年ご厄介になりました本学を停年退職することになりました。振り返ってみますと昭和15年から本学にお世話になり、その間長野工専に数年ご厄介になったのですが再度のご奉公で本学には半生を過さして頂き、教職員や本会の皆様には温かいご指導ご援助を賜り深く感謝いたす次第であります。

あっという間に停年に達し、人生の短かさ、働いた時間の短さを今更痛感いたします。大変ご迷惑許しお掛けいたし、それに報い得ずして去ることに淋しさ、申し訳なさが一杯で胸潰れる思いがします。

しかし私自身とすれば学部や千曲会の雰囲気の温かさが身に沁みて、終生そのぬくもりは私の心と体から消え去らないことでしょう。

永年教員生活をしていると人間が偏屈になり勝て、自身それが解っていないながらそれを取り除き得ずして退官の時期に来てしまいました。学生の諸君にはこうした人間になって貰いたくないという標本が教壇の上で何かを喋り続けたのですが、これで教員がよく勤まったものだと思われたい。皆様から大らかな心で抱擁して頂きましたことを心からお礼申し上げます。

国内外誠に多事多端の折皆様には愈々ご健康に留意され、各職場で悔ないご活躍の程お祈りいたします。

簡単ですが退官にあたり一言申し述べてお礼のご挨拶といたします。

長島栄一先生蚕糸学賞受賞

母校繊維農学科蚕種遺伝学教室、長島栄一先生には第38回日本蚕糸学会大会の席上、日本蚕糸学賞受賞の栄誉をうけられた。まことにめでたいことである。先生の受賞研究は「家蚕幼虫斑紋に関する発生遺伝学的研究」である。これは先生の農学博士、学位論文の主テーマと記憶している。斑紋の形成について皮膚移植といったユニークな手法を取り入れ、その結合組織における体内物質の行動を追跡して見事に斑紋形成の基本を立証した経緯は、学界でつとに高く評価されていた。私自身は今回の栄はむしろ遅きに失したとさえ思っているくらいである。深く敬意を払うとともに、今後の進展を心から願ってやまない。

(小山)

Leeds に て

篠 原 昭

ロンドンのキングスクロス駅から北へ急行で3時間、丁度東京と長野くらいのところにリーズがある。ヨークシャー(州)のやや南よりにある人口50万の中都市。いうまでもなくヨークシャーは毛糸紡績、毛織物の中心地で、大ブリテン島のほぼ中央にあり、州の面積もイングランド最大である点など何となく長野県と似ている。しかも長野県が蚕糸業の中心地であることなど、こじつけではなく符合する点が多い。事実ロンドンやバーミンガ



ムに比べると全くの田舎で、起伏に富んだ丘陵地帯に、ヒース(heath)、ムーア(moor)が続き、羊が放牧されている風景は何となく牧歌的であり、言葉もヨークシャー弁とやらで仲々わからない。言葉からいえば、むしろ東北といった所かも知れない。Busをボス、loveをロブ、stand upをスタンド・アップと言うのには面くらった。(人)の発音に方言の特徴があるらしい。こんな州の中心がリーズである。だから日本から英国を訪ねる人でもリーズに立ち寄る人はごく稀である。訪れる人といえば大抵、毛織物や既製服を商う人で、専ら商用である。リーズ、ブラッドフォード、ハダスフィールドなどが羊毛工業の中心地で、その他に当然の事ながら仕上げ工場があり、縫製工場も目につく。

リーズに Montague Burton という日本にも名の知れている有名な既製服工場がある。日本からも多くの見学者が来るという英国有数の縫製会社で、リーズの市内にもいくつかの Burton の店があって、直売もしている。この店のショーウィンドにはスコットランドのルイス島の民芸品で世界的に名の知れた、ハリス・ツィードが、必ず並べてあるが、本物かどうか、6,000円位で上衣が買える。

リーズの町は真黒である。大体英国全体が黒く、かつて Albion と呼ばれていた白い時代を彷彿することは到底できない。そんな中でもリーズは特に黒いのである。

暖房用の煤煙が白い建物の上に堆積し、煉瓦や石と化学的に結びついてしまうらしい。指先でさわっても、黒くならない。石の欄干などは黒光りしている。近頃は暖房が電気などに変わりつつあるため昔ほどではないらしいが、スモッグの日などやはり大変である。白や赤のきれいな自動車のボデーが、無惨に煤けてしまう。これだけは長野県ではちょっと想像できないことである。

リーズ大学は、市の中心に近い傾斜地に全く無秩序に建物が並び、今も建設が進められている。80余の学科に7,000人位の学生がいる。前身は医学校を母体としたものらしいが、繊維科は、1905年の大学発足当時からあったそうで、旧舎はゴシック風の古い建物である。羊毛部門と人造繊維部門とに分かれているが、やはり主体は羊毛研究で、有名なスピークマーン以来の伝統をもっている。学科の規模は日本の学部と学科の中間位であり、講座編成なども似ているが、ここには、Textile Designと繊維経営学のコースのあるのが特徴で世界的にも珍しいようである。

この大学には海外からの留学生（約3割）と女子学生がむやみと多い。大体英国には40ほどの大学しかないというのにこの状態だと将来を担うべき英国人男子の高等教育はどうなるのかと他人の事ながら気になる。ポンド切り下げがあっても表面的には反応を示さない英国人だから何か考えてはいるのだろうか……しかし経済に疎い私にも英国の台所が大変な事はよくわかる。繊維の計測機でもインストロンをはじめ、殆んどが米国やスイスのもの、歯みがき、カミソリ、インク、大抵外国品であり英国製を見つかる方がむしろ少ない。食料品に至っては、殆んど輸入品のようなものである。先日スーパーマーケットで買物をしたときの例だと、バターは隣のアイルランド共和国、ポークの缶詰はオランダ、即席スープはスイス、みかんの缶詰はとみたら、Product of JAPAN、おまけにこの店がカリフォルニア州オークランドに本店のあるSAFEWAYである。日本と英国との貿易額は大したものではないらしいが、それでも日本商品が街に沢山出ている。カメラ、トランジスタラジオは勿論、時計もセイコーは高級品、玩具などはうっかりすると、日本のものを買ってしまう。靴屋にはクラリーノが堂々と並べられている。そしてトヨペットコロナも何台かリーズの町を走っている。HONDAに至っては、大学の構内にゴロゴロしている。このような日本製品が、ポンド切り下げによって姿を消すかどうか、英国人と違って、ガツガツ働く貧乏性の日本人のことだから必ず次の手を打ち出すことと期待している。

（筆者：しのはら・あきら、母校繊維機械学科、助教授 学系2）

坂口育三先生学位を授与さる

坂口先生は養蚕科22回の卒業で現在繊維学部助教授として勤務されております。その実直な人柄と熱心な研究および学生に対する親切な指導の故に信頼が厚く、外部からの研究に対する相談も多いときいています。

このたび最近の研究の成果により3月14日付九州大学より農学博士を授与されました。先生の論文は以下に紹介するように斯界では非常にユニークな研究のため非常に高く評価されております。

絹およびナイロンのスズ増量機構に関する研究（論文要旨）

坂 口 育 三

絹の風合をそこなないように絹の目方をふやす目的で古くからスズ増量が行なわれてきたが、絹をスズ増量すると重厚な触感をあたえ、落ち着いた光沢や腰の強さも付与され、しかも鮮明な深い染色性を示すなどの性質の変化があらわれるので絹の加工法の一つの方法として行なわれている。この研究は絹の対象にナイロンを用い終始絹と平行に実験を行ない、スズ塩により多量に増量出来る理由、増量を行なっても強伸度や光沢など絹の性質に大きな変化が起らない理由、塩化スズ溶液の性質、スズ酸ゲルの性質、累加増量が行なわれる理由などを明らかにした。

この研究の特徴は、絹についてはスズ増量が古くから行なわれて来たが、他の天然繊維や合成繊維などについては勿論、多孔質の素焼などについてもスズ増量が行なわれることを明らかにし、スズ増量と空隙性との関係づけ一般化した。例えば絹を砂糖漬けてその微細空隙を塞ぎぐとスズ増量率が非常に減少することなどを見ている。また酸化スズの呈色反応は非常に少ないがヘマトキシリンにより紫紅色に鋭敏な呈色をするを見出し繊維内におけるスズ酸ゲルの沈着部位を明らかにしたこと。素焼粒をモデルにして塩化スズ溶液処理→水洗の操作を繰り返すことにより累加増量が行なわれる理論を明らかにしたことなどである。

（平林）

田中一行先生学位を授与さる

田中一行教官は「カイコその他数種鱗翅目昆虫の皮膚構造に関する研究」により多年の研究業績が認められ、東京農業大学より農学博士の学位が授与された。今後益々研究に専念されることを期待して止まない。

（竹田寛記）

噫々 鈴木教吾君

石 倉 新 十 郎

人のため世のため終生つとめたる

多才の君はついに逝きたり

鈴木君は死亡した。学生の頃から思い出が少なくない。製糸科の学生で蚕霊供養塔の建設には熱心誠意努力したものであった。当時左傾の人と称せられた長谷川如是閑大山郁夫氏などを聘して講演させた。社会思想などに余り関心のなかった三谷部長の顔色を青からしめたのである。

卒業してから実力を遺憾なく発揮して東北帝国大学に入学した。そこの経済科を卒業して、母校に帰り、母校の幹旋で郡是製糸会社に入社した。時たって会社の信任を得ると共に母校出身の卒業生多数を年々推薦して同社に採用させたのである。この誠意努力に対して千曲会では少々認識不足の感があったようである。鈴木君の葬儀に小林理事長、松尾氏が参会されて今更ながらやれやれの感であった。

鈴木君は郡是本社の重役から郡是産業会社の社長に栄転した。終戦直後印度から欧米各国を一巡して帰ると間もなく健康を損じ、医師の診断で直腸癌とわかった。それを当人が識って死を覚悟し、死後の萬事を自ら処置したと聞き全く愕かされたのである。幸に癌の性質がよかったので、静養のかいがあり10年近く生命を保持した。其の間に龐大な郡是史を編纂し、また月余要して針塚先生回顧誌をまた私の懐旧誌まで編輯されたのである。

死を覚悟してから超然として悠々自適の生活された態度には心から敬意を表せざるを得ないのである。

(筆者：いしくら・しんじゅうろう、元母校紡織科長)

グンゼ人、鈴木教吾先生

西 田 勇 三 郎

昭和42年12月25日鈴木教吾氏心臓麻痺の為急逝。享年71才。法名「光照院釈信教哲元居士」

〆山寺の徑(こみち)デコボコ北風すさぶ、絶句となる。

グンゼ(株)に於ける鈴木さんは文字通り本社人で、工場には一度も出られなかった。一日も本社に欠かせない人であったと言って過言でない。40数工場からの申請や連絡は一々鈴木さんの頭の中を通り、重役の指示は鈴木さんの頭の中を通して会社の是となった。社長の挨拶、会社の意志表示で鈴木さんの手にならぬものはないと言

ってよい。それ程歴代の社長も専務も鈴木さんを信じて切った。そして一分の狂いもなく郡是が動いて行ったのである。

それと同時に鈴木さんは直接の部下以外の社員に対しても実に、克明に細部に渡って熟知し、徹底的に面倒を見てくれた。ある工場の労務係の妻君が出産予後のよくない事を当時本社の労務課長をしていた私が聞いた程度であったのに、総務部長が懇々呼んで丁寧に見舞いを言われたと涙しつつ私に報告した事があった。又郡是産業の社長になってから私の工場に来遊、入浴の時囁話の大林医師も一緒になり、鈴木さんに私が紹介すると「ああ先生は戦争中宮崎に召されて御座いましたね、御苦労様でした」と即座に挨拶され、大林先生は只アッけに取られて「あれはどう言う人ですか」として後々迄語り草になった事があった。鈴木さんの一面である。

今のグンゼの幹部で鈴木さんの手塩にかからない者は一人も無い。

恐い重役だったが、人なつこい人であった。ひとの事はいつ迄も忘れない地獄耳なのに、自分がひとにしてやった事は一切忘れてしまうほどの人であった。それだけに奥さんは大変であった事と思われるが実によく尽された。

部下の長所を見、決して捨てる事をしなかった。どの様な部下も何とかして引立てようとした苦心が、鈴木さんの苦勞であったと思う。

鈴木さんの経綸は往く処として可ならざるなく現在のグンゼの縦糸は全く鈴木さんによって出来上った。一時郡是を退めかけた石田一郎氏を止めたのも鈴木さんである。故石田社長が飛躍期の郡是の名社長であった事は周知の通りである。

郡是産業の社長になってからの鈴木さんは人格的に完成期にあったと思う。一流会社の社長達に互して一步のひけも取らなかった。然しそれが却ってひとを信じ過ぎる結果を招いたとも言える。昭和26年末の経済界の嵐は一樣に吹き荒れた。福井の店を預っていた私を含めて同業の伊藤忠、丸紅の支店長達が本社の指示をうけてオッパを張り通し、大きい赤字に苦悩していた。郡是産業も亦ご多分に洩れず、その損失は前記2社とは比較にならぬ程渺ない数字であったが、製糸から別れて間のない産業はあわてざるを得ず、鈴木社長が連日ひどい下痢を押し、業をあおりながらの闘われる姿は見るも気の毒であった。あれだけお世話になった製糸の連中に掌を返す様にひどい言辭を弄して鈴木さんに迫る奴が居た。側にいて何度拳を握りしめたかわからない。然し鈴木さんは責めを独りに受けて只の一言も言訳されず、静かに坐を退いた。その退け際は実に堂々としていた。

余暇の出来た鈴木さんは早速診察をうけた結果直腸癌と言う事で大手術を行ない、腸の癒着が甚だしく重ねて手術をうけた。2度目の時は麻酔がきれて手術に立ち会っていた農博故中田太郎氏が失心する程ひどいものであったのに奇跡的に助かった。鈴木さんは何度かこう言う大病にかかりながらその都度よく堪えられ、その度に鈴木さんを心配した人達（樋口琢磨蚕専教授、大槻滋雄郡是企画課長、農博中田太郎、石田一郎郡是社長等々）が夫々亡くなったのに、一番弱いと思われた鈴木さんが生き残られた。

よく鈴木さんに「鈴木さんはしぶといからキットその人達の分も長生しますよ」と言い言いたものであったが、41年春ひどい肺炎にかかり6、7日も人事不省に陥り、心臓を弱らせたのが元で低血圧に悩んでおられた。然しその後よくなられて句会にも出たりしてこうも急に亡くなられようとは思ひもかけなかった。

当日も自分で歩いて奥様のいさめも聞かず「運動だから」と態々遠廻りをして主治医を訪ね、自分の番が来て診察台に上って横になった儘の大往生であった由。いつもなら一人なのに虫の知らせか奥様がついて行かれたので、奥様に最後をみとられて逝かれた。

几帳面な鈴木さんは既に賀状も出してあり、その賀状にお年玉が当って、私は冥土からお年玉を持って挨拶を頂いた事になった。そしてこれが又本当の絶筆となる。

上田の学校が育てた第一級の先輩、グンゼと郡是産業にその生涯を捧げ尽した哲人。鈴木教吾先生今やなし。

（筆者：にしだ・ゆうざぶろう、糸16）

畏友鈴木教吾氏を悼む

山 本 岩 三 郎

唐突の計

師走も押しつまった25日午後西田勇三郎君（糸16）の遠しい電話によって鈴木氏急死の計をうけた。その日朝11時前頃夫人に付き添われて自宅近くの島田医の診察をうけるため家を出たが、行くに近い途があるに不拘わさず遠廻りして偶には運動せねばと夫人の勧める近道説を却けて赴いた由。医院で暫時待つ程にしきりに手指を揉んで少し気分が悪い様子なので医師が抱いて患者用ベットに横たえ聴診器を当てた医師は愕然として容易ならぬ容態を告げた。程なく殆んど施す間もすべもなく最後となった。このはかなく悲しい永遠の別れに立ち会った者は生涯の信頼を傾けた愛する妻と医師であった。何事も語らず苦しまず近親に迷惑をかけず一切の力を藉りず

帰するが如き稀に見る不思議なる大往生であった由。病名は心不全。時に昭和42年12月25日午前11時半。行年71才9カ月。

行 事

なにしろ年の瀬も迫った折柄、故人の知人、関係方面への連絡は電報と電話よりない。明けて26日通夜、27日午後1時より2時告別式とする。尚一切の準備と打ち合わせを26日朝故人宅にて行なうことを慌しく西田君と約した。26日西田君が専ら中心となって郡是、郡産、小林運美氏、蚕糸会（宮前、小平両氏）野崎清氏、千曲会、裁判所関係等極力連絡をとった。喪主フジ未亡人。告別式直後下落合にて茶毘。通夜26日夜6時より、友人代表の形で私が世話役を仰せつかった。通夜の日には冷え込んだ寒い夜だったが、西田君の同期生郡是及び郡産の幹部諸公、故人の出勤していた裁判所の人々浜香三君（幼3）北海道よりかけつけた長男経夫君（判事）親類縁者の方等によって賑やかに故人を偲んだ。特に嘗て郡是マンとして故人の下で働いた在京同窓生が故人の思い出に花を咲かせて淋しさを紛らしてくれた。

27日告別式の日には朝から曇ってテレビは若干の雨とつたえていたが段々明るくなり愁眉をひらいた。さて、あらためて故人は光照院釈信教哲元居士と生前より親しかった小平市龍門寺座主、禿（かむろ）師によって戒をうけた。告別式は予定の如く午後1時より禿導師読誦のもとに執り行なわれ西田君進行係をつとめ故人最期の職場だった裁判所、横山郡是社長（故人の功績を讀えて）の順で弔辞が捧げられ、とくに石倉先生（元蚕専教授）は老齢で目も脚も不自由なのに夫人介添えて列席され壇前にて焼香の前しばし故人の写真に見入って居られたが「オオ笑っているな」と言った途端、嗚咽して声をなさない。一同も師弟の情の濃さと生前いつも故人が師の礼をとっていたことを思っ涙をさそった。そしてよく年寄を可愛がってくれたがもう会えぬとの一首を献じられた。西田君が弔電を披露したが実に130通余に達した。会葬者もかつての郡是を中心として横山社長外多数の幹部及びかつての郡是マンだった野崎氏を初め同窓諸君、上田より松尾博士、千曲会小林理事長外東京同窓生等予想を越えて多数の会葬を得て告別式は終った。私はフジ未亡人、長男経夫君と共に一同の方々にお礼の挨拶をした。出棺の準備をし火葬場に向ったのは、3時近くなった。此の間さむ空に会葬の方々を立たせ柩車の発つまで見送りを頂き、とくに郡是関係同窓の各位には茶毘に立ち合って頂き相済まぬ次第であった。遺骨は5時半頃経夫君の胸に抱かれて暮れかかった我が家に帰った。曇った空は晴れて風が出た。行事は滞りなく済んだ。少し風を引いた様だ。

居士の経歴

福島県の産。大正10年3月上田蚕専卒(糸8)。大正15年東北大学文学部卒。フジ夫人と結婚。大正15年4月上田蚕専嘱託。昭和2年2月郡是入社。21年10月退社(この間同社総務部長、取締役歴任)21年11月郡是産業KK社長。26年12月退社。癌手術。多難時代。36年5月針塚長太郎先生(その伝記と追想記)の編集委員として鎌骨の編集に当たる。38年12月東京地方裁判所民事調停委員に選任、現職のまま死去。遺族は君が一目置いていたフジ未亡人、三男三女あり。子弟は所を得て後嗣の患いなし。

君が上田に入学したのは、サラエボ事件に端を発した第一次大戦(1914—18)の終熄の年大正7年で生糸は外貨獲得の王座と騒がれ戦いは終ったと謂え戦争景気のさ中で上田に笈を負って集る学徒は全国に及んだ。然し大正9年頃から生糸は暴落して凋落の影が見えた。君が東北大に入学したのも君の将来の向学心のみに因るとは考えられぬ。昭和2年郡是に入社21年迄最も華やかな時代で恐らく君の永久の記憶であろう。郡是はその伝統として特殊の経営と確かさを持った特異の存在ではあったが何と言ってもまだ田舎会社の風があった。君が入社して最高幹部の方針もあったであろうが、君が俊敏の判断によって有能の士を統々迎えて新たな陣容を布いたと見られる。同社今日の隆盛の中興に参画したと言うのは過言であろうか。東北大入学から郡是入社まで恩師針塚先生に負う所は君が先生の追想記に明らかで、君がよき伯樂を得た事は一生の幸福であった。

郡産KK退職後

昭和26年郡産社長退職後程なく不治の病と謂われる直腸癌におかされ郡是病院に入院、前後3回の難手術をうけ6カ月近い闘病生活を送った。然し不思議と全快し、爾来16年間とも角健康を保ったのは君の不屈の精神と賢夫人の健康管理の賜と思う。38年夏頃か西田君から鈴木さんも大分元気になられ、針塚先生の伝記も一先ず片付いたので何か仕事でもあれば健康の支えになると思うがとの話があった。本人が希望なら裁判所の調停委員でもやって見るか但し全く奉仕的な仕事だが、という様な話からその年の暮に一般民事の調停委員に選任せられた。君は熱心で非常に興味を持ち事実健康の支えにもなった様に見られた。

その人となり

私が君に初めて会ったのは大正7年4月の末頃かと思う。学生控室の角火鉢を囲んでの出会いだった。鼻下に少し髭をたくわえた妙に大成ぶった瘦身短軀、吃音ではないが東北弁で少し早口で山羊を思わせる様な風才が第一感だった。私は蚕の2年君は新入でジックリ話し合う

機もなかった。然し専検を経て入学した俊秀と聞いてひそかに敬意を払っていた。君は修己寮に居り間宮君(蚕7、代議士になった)などとテニスをやっていたのを覚えていた。

晩年俳句に傾倒していたが死の直前12月20日裁判所の同人会での「山寺や徑(コミチ)デコボコ北風(キタ)」すさぶ」が第一席に当選、しかもこれが絶句となった。君の性格は誠意。念の届く人、努力の士、一面頑固、反骨、役割はシテでなく脇役がよいと断じては九泉の下で居士は苦笑しているか。

大嫌忌

43年2月11日は居士の満中陰に当る。私もお詣りをした。くつろいだ席で禿師の曰く私は頂いた布施全部を墓碑建立の資の一部に鈴木家へ贈ったと、寺から里への美拳は実に君の徳望に因る。此の目窓外陽光あるも春浅く庭前の白梅稍ふくらみ故人の目離れせず眺めたであろうと胸にしみる。文の拙いのを調まる。「中陰忌主なき庭や梅三分」これもマズイナと居士は笑っているか。では静かに休んで下さい。

(筆者：やまもと・いわさぶろう、蚕7)

碓氷茂君を憶う

香山清和

1月17日、千曲会事務局から「碓氷君が死んだという風評を聞いたが事実か」との電話があった。寝耳に水の話なので短刀直入、直接確めるに限ると思い早速、碓氷君宅へ電話したら夫人が出て11月28日心筋硬塞にて急死したとの返事にびっくり仰天した訳である。直ちに同級の3君へ電話で通知した。涙君は人から聞いて弔電を打ったとのこと、小松君からはどうするかとの電話があり宮本君からは東京で同級会をやり一同で弔問しようではないかとのハガキに接した。碓氷君夫人、冬子さんからは僕の電話に折返して印刷の死亡通知が来た(同時に各所へ配布されたようである)。電話の後、直ちに弔文、香料を送付したのに対し夫人から礼状来り、その中に、「前日まで電話で本を注文したり日記や歌集を書いておりましたのに……あまり突然で」と書かれてあった。

僕等紡3回の同級生はもともと母校随一の小人数の上に死亡率も高く、業強く生残ったのは5人だけとなったから小人数のせいもあり互に仲よく行き来したものであった。その上、僕の発起で33年3月別所温泉で同級会をやって以来、あまり長くも生きられないから毎年輪番でやろう、妻や家族も加えようじゃないかという事になり

34年4月宮本君が幹事で船橋ヘルスセンター、35年5月碓氷君が幹事で磯部温泉、36年6月、小松君が幹事で上諏訪温泉、37年7月、浜君が幹事で伊東温泉というように毎年実施したのを僕の番になって生来のずぼらと一巡したという心の弛み、僕の入院手術、浜君夫人の怪我などの原因で延びた。そこへ石倉先生の喜寿記念出版に関連し浜君と碓氷君の仲が不円滑となり同級会を開いても碓氷君が出席しないのではないかと予想されたので更に延期した。それを野口氏のご援助を得て解決に当り39年10月8日野口氏と上京、碓氷君と浜君に会い円満解決し碓氷君から同級会に喜んで出席する旨の確約を得たのである。斯くて全員出席の見込みが立ったので僕が幹事として第6回同級会を40年3月鹿教湯温泉で開催したが碓氷君からは急に当日になって「来客、遅れる」との電報をよこしたまま出席がなかった。更に41年4月熱海温泉で宮本君が幹事で挙行されたがこの時も碓氷君は、出席すると云いながら「姉危篤、行かれぬ」との電報をよこし見えなかった。従って僕が碓氷君に会ったのは39年が最後となった訳である。この時は珍しく碓氷君が家へ来て泊れとの強いての勧めで、浜君と夕食を共にした後国電三鷹駅下車、遅くなった為め、碓氷君から教わった東伏見国地行バスは時間外でなくなり、バスは東伏見で降され漸くハイヤーを拾って雨の降る中を碓氷君宅に辿り着いた。この時始めて夫人に会った。同君宅で一泊し、翌日は浅間温泉で会議があるので早朝5時半頃、碓氷君に案内されて西武電車東伏見駅まで送って頂いたのが最後となった訳である。

碓氷君は小泉蚕業学校（現上田東高等学校）出身、卒業後1年勉強された後、母校へ入学されたので同級中最年長であった。学生時代の君は文学青年であり革新思想にも興味を持たれ大杉栄、堺利彦、山川均等の著書を愛読され、大杉栄が殺害された時には悲憤慷慨されていたのを覚えている。斯うした事に幼稚な僕は勧められるままに大杉栄の著書や名前を忘れたが2、3の文学書を購入したものである。在学中に恋人を持たれたような話も聞いた。僕等が3年生の時、1年生から紡織科の養蚕実習中止運動の提案があり（この運動は成功した。当時養蚕科は紡織実習をやっていないという点は確かに不公平であった）、僕等は直ちに賛成したが碓氷君のみ「基礎であり、今後やらない事であるから一度は体験した方がよい」と反対された。すぐ雷同する僕等に対し、蚕業校出身という事もあったが他方君が何事にも一つの見識があり又変った見方をする面を示したものである。他にもいろいろ逸話があったようであるが在学中は君とあまり深い交際はなかったのであまりよく知らなかった。母校卒業後、少し長野高女の先生を勤めてから君は京大で農業

経済を学ばれた。京大卒業後は帝国農学会、次で全国産業組合製糸連合会に勤務され、筆のたつ君は雑誌等によく蚕業経済について寄稿された。又千曲会の機関紙である千曲時報にも庶民的な香の強い随筆を毎月のように書かれた。僕は母校卒業後、関東紡績平塚工場に勤務しその時君が僕の下宿へ一泊し、その記事が某雑誌に寄稿されているのを見た事がある。僕は紡績生活数年で母校へ勤務する事になった。それ以来出張等で上京する毎に蚕糸会館内の君の勤務先へ立寄ったものである。昭和14年僕は満州へ転職したので君とは疎遠になった。君は終戦近く新潟市の満蒙開拓館に勤務して居られた。終戦後は安中蚕糸高等学校に奉職され兼ねて社会党の勝間田代議士が京大の同級生とかの関係から外務省海外移住協会の理事となりブラジル移民事業に精魂を打込まれブラジル、パラグアイ、アルゼンチン等の南米諸国を視察された。母校50周年記念の時は珍しく千曲会総会に出席され記念事業としてブラジルの土地購入の件を提案されたり、更に母校の学生を集めてブラジル移民の講演をされ、遂には一家を挙げて移民される計画を立てられたがその後中止され数年前都内保谷町に住宅を新築されクリーニング業を営まれる令嬢夫婦と同居されタイプ、印刷等の仕事に従事された。僕は大体服装をかまわない方であるが、君は僕に輪をかけてなりふりをかまわない方で流行に超然とした洋服、頭髪はボサボサ、無産党の闘士か文士を思わせるようなタイプで、その上、話し方も地味であったのでこうした外交的な仕事はあまり適当でないのではないかと思ったりした。

僕は引揚が遅れて28年上海から帰国したが母校の所在地上田に住んでいたのも君が上田へ来ると大抵連絡があり自宅、母校或は喫茶店等で会った。然し君は泊る処があるし僕の家は引揚住宅（現在、これを引払って新田へ移転した）で手ぜまであったから泊られた事は一度もなかった。その頃君は若い時代の恋愛を主材とした自叙伝を当地島田書店から出版されその寄贈を受けた。浜君との問題が起きてからは頻繁に君の訪問を受けた。そして39年の君との出会いが終止符となった訳である。然し君の懸案を解決してやったのであるから君も草場の陰から感謝してくれている事であろう。学生時代には同級生との交際の浅かった僕も母校に一時勤務し現在も上田に住んでいる関係上同級生間の連絡は僕を中心として動いたので誰とも最も多く会い従って夫人を始め家族の方々と最も親しくしていると信じている。そうした点から考えると碓氷君との関係が最も薄く、特にご家族とは夫人にたった1回お会いしただけで更に薄いものであった。恐らくご夫人はお会いしても僕の顔は記憶されていないであろう。7回催した同級会にも他の夫人は何回も出席

されているが碓氷君夫人は一度も出席されていない。それ故同級生との関係の浅いことは僕のみでなく誰ともそうであったのではないかと。君は同級生の中で唯一人の大学出身であり（それが却って僕等との間に紙1枚の隙を作ったのかも知れない）もっと偉くなるべき人でありながら埋れてしまったような気がする。農業系の学校から紡織という工業へ転じたがやはり農業から離れられず農業系の大学をやった事も多少損になったであろう。誰も現境に不満を持たない者はないであろうが特に君は心の中にそうした気持が深かったのではないかと。君に会う時、何んとなしに孤独的な淋しさを感じさせたのは僕のみではないであろう。死亡通知も貰わず、ご遺族からは無視されている僕が君の憶い出を書くのは少し出過ぎた行為のように思わないでもないが、それでも僕が最も君を知っている者であると自負して敢えて認めた次第である。それ故、君を知る事が十分でなくその上何十年という年月を経過している点で落ちている点、間違っている点があるかも知れないがご諒承を願う次第である。あたら英才を抱きながら大をなそうと努めながら達し得ず急死せる君よ、あの世で大いに翼を伸ばし思うが儘に活躍せられよ、頭を垂れて深く君の冥福を祈るものである。

我々の間で毎年同級会をやっている事を始めに述べたが本年は小松君が幹事となり信州の何処かで行なわれる事になっていたが碓氷君が死去され宮本君から提案があり僕も賛成であるので濱君、小松君に相談した処、同意を得たので小松君の方は1年延期し本年は宮本君が幹事で5月初旬、東京で同級会を開催し碓氷君を弔問する事に決定した。この詳細は改めて同級会記事として多分宮本君から報告があるものと信じている。

(筆者：かやま・きよかず、幼3)

故中島暹君を偲びて

馬 場 長 市

旧臘30日の夜、小林運美君から電話で中島君が病勢急変遂に永眠された旨連絡あり、まさかあの元気で恢復途上にあった中島君が急に死ぬ筈がないではないかと思いつつも、やっぱり病気が病氣故駄目であったかと諦めざるを得なかった。丁度1カ月前の11月28日には星野君の訃報に接し、更に12月25日には大先輩鈴木教吾氏の逝去あってから僅か5日の後再び此の悲報とは余りに度重なる吾が身の不幸続きに人生の無情を感じざるを得なかった。翌31日は大晦日ではあったが築地のガンセンター病院に中島君の遺骸面接かたがた奥さん外身内の方々

にお悔みのため病院へ出掛けて行く。病院には既に小林君、富岡君、西田君が来られていた。奥さん外親族の方々にお悔みを述べ遺体解剖の済むのを待つ、暫くして解剖も済み、遺体は納棺の上安置され、僧侶のお経が叫ばれた。間もなく母校より柳沢学部長外2方が上田より自動車でかけつけられ万事を先生方にお願ひして、先ず吾々3名は病院を辞去し夫々自宅に帰ることになった。当日遺体は東京で茶毘に附せられ郷里に帰ることになったのである。

中島君は昨年4月頃より病氣のため長野の国立療養所で加療中であつたが11月病勢悪化し、1日も早くガンセンター病院に入院の上手術を受けよとの病院の指示に従ひ急遽上京したのであるが病室満員のため己むなく車銀座の旅館に待機していたのである。11月下旬小林君からの知らせで、旅館を訪れ久し振りに中島君に面談したが迎も病人とは思われぬ元気で今回の病氣入院に至る迄の経過を話してくれたが、中島君の話では病氣発見が遅れて手おくれとなり今となっては運を天に任せるより致し方ないと諦めておられたが頗る元気で病人とは思われぬ状態であつた。その後12月に入った或る日、上田高校同窓会幹事会の席上、先輩の勝俣稔先生のご紹介を頂き1日も早くガンセンター病院に入院出来るようにと先生の名刺を持参して再び見舞舞々旅館を訪れた処既に入院出来たとの事で直ちにその足でガンセンター病院に中島君を見舞った。折悪しく奥さんとはご不在であつたので2人だけで四方山の話をなし早く元気になれと激励した。星野君の死は彼には話さぬことにしようとう東京在住の連中と申合せておつたが中島君の方から「星野君が死んだそうだね」と云われてビックリした。彼は家族の者からは病名は聞かされておらなかったが吾々友人仲間に対しては自分は肺ガンであることを平気で語っておられた。私も先輩の勝俣さんが肺ガンで手術をされ1ヶ月の肺でピンピンしておられるのだから君も必ず治るよ、元気で療養に専心したまえ、と励まして奥さん不在のまま病院を辞去したのであつたが、それが最後の別れとなるとは想像も出来なかった。その後容体は順調であつたので奥さんは正月の準備に郷里へ帰られておる留守中30日突然病勢が急変して此の世を去つたのである。私は中島君とは共に上田市に合併される以前の塩尻村の出身で彼は秋和小生は上塩尻と部落は別であつたが小学校時代からのクラスメートであつたから或る年は同じ教室に、或る年は別のクラスに編入されたりしておつたが6年のとき上田中学に受験のため放課後の補修教育の際同じ仲間に入つて特に親しく遊んだり、共に勉強の機会を持ったものであり、少年時代の思い出は懐かしいものとなつた。その後上中を経て母校に共に入学し、3年間の学生々活を送つ

たが此の間私は汽車通学、彼は自転車通学であったので通学中の出会いはいなくなった。昭和4年4月共に社会に出る迄実に14年間学び屋を共にしたクラスメートであり幼少の時から暹（すずむ）ちゃん、長ちゃんと呼び合った仲である。暹ちゃんは子供の時から学科が良く出来、特に数学が得意であった。常に優秀な成績で小学校、中学、専門と順調に進み母校を優秀な成績で卒業後農林省に就職した。農林省ではやがて蚕繭処理の仕事をされておったように記憶する。小生がグンゼの壕口工場在職中彼は兵庫県に農林技師として東京より赴任して来たので今度こそ時々会える機会があると喜んだのも束の間、間もなく足召にあい、再び別れ別れとなって仕舞った。

除隊後は彼は郷里に帰り、間もなく母校千曲会の書記として同窓の世話をなし、その敏腕を認められ母校の事務職員に採用されるに至り、先年松本、長野を経て、再度母校に帰り事務長に榮進し久し振りに郷里の自宅から通勤出来るチャンスを与えられることになったが遂に不

治の病を得て昇天するに至ったのである。せめてあと5～6年は現職で活躍して貰いたかった。特に時局多端の折柄大学運営の困難のとき彼に最後の手腕を奮って貰いたかったが今ではそれも不可能となり、洵に惜しい次第である。

彼は幼少の頃より頗る緻密な頭脳の持ち主で計数に明るく、囲碁が上手であった。一方楽天的な性格で決して愚痴をこぼさず、友人に対して親切であり何かとこまめに吾々学友間の世話をしてくれたので彼が母校に居てくれることは吾々クラスメートに取っては誠に便利重宝であった。吾々もなんでも気楽に中島君に連絡し合い、クラスメートの連絡世話係となってくれ頗る便利であった事は感謝に堪えない。今や彼亡き後は実に淋しさを覚え、何か1本柱が抜けた感じがしてならない。地下に眠る中島君に感謝の心を捧げると共に同君の冥福を祈ってやまない。

（筆者：はば・ちよういち、糸16）

養蚕工場の誕生！！

機械化養蚕への出発！！

弊社が既に完成実用化した自動飼育機械

・壮蚕用自動飼育装置

半自動式……1人10箱担当、協業経営用
全自動式……1人20箱担当、企業経営用
小型個人用…1戸10～15箱飼育、個人経営用

・稚蚕用自動飼育装置

貯桑室→自動刈桑機→ホッパー→コンベアー→
自動給桑機→蚕座まで、一連のコンバイン方式

・稚蚕用簡易給桑機

従来の箱飼い、箱飼いの給桑自動化

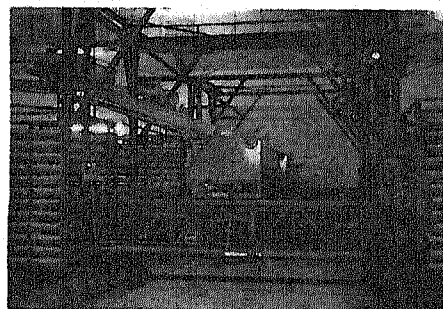
・自動調桑機（壮蚕条桑用）

桑葉もぎ取り式太条部除去

・自動大型改良刈桑機

大型飼育所用、能率3倍以上

・その他各種の飼育機械、器具の受注を致します。



稚蚕飼育工場

愛媛県広見町養蚕農協（本年3月設置）

信大繊維学部、農林省、全養連、各県蚕業試験場のご指導とご推奨を賜っております。



信光技研有限公司

長野県上田市常入1166（産業通り1丁目）

TEL 上田 ②7135 ③0031（夜間専用）



巣立つ学生諸君へ 伸びる社員の条件

北 野 三 郎

自分の仕事にかけては、社内ばかりか業界にもひけをとらないベテラン・スペシャリストになることが最低の条件である。

創造力と行動力があり、その人の適性をフルに発揮して業績を上げる社員——これが現在の企業が最も求めている社員だし、そうした人こそ、企業では放っておかない伸びゆく社員といえるだろう。

となれば、今いわれているような、勤務時間中だけが仕事で、給料分だけ働けばいい——とする「遅れず、休まず、働かず」の三す主義的なマイホーム型、レジャー型では心もとない。やはり、自分に与えられたポストの仕事については、社内ばかりか、できうれば業界でもひけをとらないベテラン、スペシャリストになることが、まず最低の必要条件といえる。

その仕事も、ただのルーティンワーク（決まった仕事）だけなら、それを100パーセントに遂行したとしてもあたり前のこと。それだけではなく、目標をたて、いかにしてその仕事を改善・合理化して経費を浮かすか、また業績を向上するアイディアは何かを考え出すなど、前向きの姿勢で仕事をしてこそ、「やる気」ある社員といえるだろう。これからはマーケティング（販売市場）中心の時代で、米国ではこれを身につけていないと経営者になれない、とされている。

一方企業をリードしていく中堅社員は、技術をみがき、視野を広め、新しい技術革新、経営革新に遅れず、先見性を発揮せざるを得ない——とすればとてもオン・ザ・ジョブ式（職場内教育）だけでは間に合わない。結局「夜

の時間」ばかりか、ときには休日も、いうなれば1日24時間、うまく配分して自己啓発に時間をさかないと、追いつかなくなる。

大勢の中から「伸びる社員」として自他ともに認められるようになるには人並の努力ではできないことではない。人並のことしかししないのでは、いつまでもたっても目立たぬ存在で終わるのが関の山。夜おそくまで専門書に取り組む、自己啓発につとめないと、一人前とはいえない。少々苦勞をしても、少しでも早く頭角を現わすことが先決である。フランスのある学者だが、森の中で、いったん他の木より多少でも伸びられた木は、こんどは太陽の恩恵を一手にうけてグングン伸びはじめ一

一といっている。サラリーマンにもこれと同じことがいえるのではなからうか。

勿論、そればかりが人生ではない。人それぞれに生きる道も、考え方も違う。与えられた地位と給料に甘んじて生活をエンジョイするのも結構だし、それも人生の生き方の一つである。しかし、能力主義となりつつある日本の企業では、アメリカと同様に、そういう人たちは与えられた仕事だけを果たしておればそれでよいのだが、もしも「伸びる社員」をめざるのであれば、これからはやはり人一倍のきびしさに進んで立つことを覚悟しなければならぬまい。（筆者：きたの・さぶろう、幼14、村田機械犬山工場）

新卒業生におくることば

校 門

こやま・ながお

強い太陽を吸収して
校門が立っている
それは……………
喜びと悲哀の接点が
しだいに近づいてくるのを
知っている

鋭い風に刺されながら
校門が立っている
それは……………
感傷と虚無の錯そうが
しだいに高まってくるのを
伝えている

赤い夜光に照らされて
校門が立っている
それは……………
青春と自由のカクテルが
しだいに匂ってくるのを
嗅いでいる

重い雨に打たれて
校門が立っている
それは……………
行動と静止の座標が
しだいに遠ざかるのを
見守っている

暑ければふくらみ
寒ければしぼむ
あなたがたの校門
校門はあなたがたの心に生きる

あなたがたはそれを……………
体腔にかかえて
保護せねばならない
守りぬかねばならない
たとえ
それが風化しつくしたとしても

逆境を克服した人

荻原清治

近頃の巷のニュースは世界の平和をおびやかすような情報、社会不安をかきたてるような危惧、更には公害の問題など、明るくないものが多く、吾々の気持を滅入らせている。この中でソニー社のSMDの発明は明るいニュースの一つである。しかも発明者が20才の青年研究者であることはニュースバリューを何倍も高めるものであり、世の青年研究者の奮起を促しているのである。吾々はこのようなニュースを日々望んでいる。巷にこんな気持のよいニュースが満ち満ちてくれれば、それこそ社会はどんなにか明るくなるだろう。千曲会報でもこういう明るい記事が次々と載ることを願ってやまない。その一つとして私達の身近にあったニュースを伝えたい。話の主人公は製糸18回(昭6)卒の宮崎忠祥氏である。同氏の卒業当時は製糸業の全盛時代で学校へは全国から秀才が集まり、競争率も相当なものであった。同氏は級中のトップクラスで、卒業後は片倉製糸(現片倉工業)に奉職した。そして在勤中は社内きっての優秀として将来を嘱望されていた。運命のいたずらは誠に無情で一寸先の予測も出来ない。同氏は28才の時、片倉烏楯工場で勤務中に不慮の災害にあい、奥様や兄弟達の必死の看護の甲斐も空しく永遠に光を失ってしまったのである。将来の希望を失った君は悄然として郷里の西条市に帰り、両親や兄弟達の暖かいはげましにより農業を中心とした貸家業を営むようになった。失明された氏は自ら鎌をとることも出来ず、これからは奥様の並々ならぬ苦勞と協力が始まったのである。そして常人でもよくない立派な仕事をつづけているのである。かたわら社会事業にも大きな貢献をしている。先般同君から親友、千葉達人氏に送られた書翰の一節を記してみよう。『今、仕事の中心は数十軒の貸

家であり、今も続々と新築している。社会方面ではこの間放火のため西条市の中学校が全焼した時、校舎建設期成同盟をつくり、自ら会長を買って出て遂に鉄筋4階建の名実共に日本一の校舎を完成して、父兄の皆さんから非常に喜んでいただいた。現在は大きな事業として、総工費83億の火力発電所を誘致し目下工事進行中であり、その他いろいろな公共事業の先頭にたって活動をしている。そして最近では私の功績をたたえてくれ、銅像建設の声がある。このように強靱な意志をもって楽しく生活することが出来るのも上田の諸先生から受けた教訓の賜物であり、逆境にたって改めて先生方の大恩をひしひしと身を感じている。そして若くして失明したことはかえすがえすも残念だがこの苦難をのりこえて働くということは並大抵のことではない。貴下は私にとっては唯一の親友でした。貴下は謙虚正直、真面目で、且つ互譲の精神にとみ、温厚な人物で、将来は必ず一流会社の部長、重役に昇られる素質のあることが在学中からすでに具なっており、現在の地位への昇進も当然なことだ』と述懐をしているのである(原文のまま奥様代筆)。宮崎氏が失望落胆せず奮起して立ちあがったのもみんな立派な奥様の好伴侶によるのである。こんな立派な同窓生が四国の田舎に在ることを私は声を大にして全同窓生に知らせたいのである。

光明を失って立派な業績を残した人は世にいくらかあることであろう。昨年春、群馬台閣の問題に独力で挑戦し執念の勞作を完成して吉川英治賞を受賞した宮崎康平氏も和子夫人の協力によりこの偉業をなしとげ、古くは堀、検校の史実、宮崎氏の仕事もこれらに勝るとも劣らない快挙である。また氏は兄弟愛が非常に深く、令兄の仕事を吾が事のように案じているのである。令兄清治氏は(蚕7卒)卒業後官界に入り蚕糸課長となり、退官後は郷里の松山に帰り現在では道後温泉で2つの

国際観光ホテルを経営しているのである。最近建築費数億をかけて近代建築の粋をあつめた建物をつくり名実共に道後温泉の一偉觀のホテルをつくりあげたのである。また社会的には温泉組合長、各種の社長などを兼任し、道後における有力者の1人として萬丈の気を吐いているのである。兄弟2人が同じ学園に学び、しかも専門と全く筋ちがいの方面で1人は賢夫人の力強い内助によって逆境を克服し、1人は堂々と競争社会で四ツに組んで活躍していることは聞くにまことに清々しいビックニュースである。清治氏はこよなく千曲会を愛し、支会総会にはいつも自分のホテルを提供し、自らも出席されて同窓のために便宜をはかり、同窓各位から感謝されているのである。筆者も先年支会に出席した時、お世話になったがその発展振りに目をみはったのである。どうか忠祥氏には自愛自重なされ、賢夫人の暖かく力強い内助に、また親友達の激励に応じて強く美しく生きられるよう祈る。また清治氏にはいよいよ御自愛なされ更に遠大な計画を実現され、観光道後の発展を期せられるよう、また愛媛千曲会の支柱となり後輩を指導して下さいよう祈る。

(筆者：おぎわら・きよはる、母校繊維工学科教授、糸12)

パラグアイ寸信(その1)

鈴木彦佐

今日は3月15日、日本を出発してからもう20日になりました。南米の奥地で毎日36~37°Cの内陸性気候の下、大自然の原始林の中で元気で働いております。

第1回目に掃立てた蚕は、3月8~9日に経過22~23日で上簇を完了しました。ほっと一息ついたところです。おどろいたことに、病蚕などはみたくもみれないほどの好成绩で、美事なできばえでした。やはり処女地には病菌がないのでしょう。用いた品種は片倉の2交雑種でした。繭層重も2.1g



に近くまあまあというところ。

飼育中は毎日50人位が見学にやってきて応接に困るくらいでした。第2回目のテスト用も60g着荷して目下催青中です。3月20日頃掃立ての予定。第3回目は4月下旬掃立てることになります。忙しい日がつづくことでしょう。

私は農場の宿舎で起居していますが食事が全部日本食なので本当に助かります。近くの川では、体長1m位の魚がボンボン採れます。5月には私は単独でブラジルへ行きますので、蝶でも採集してお土産にしようと思っております。

ここはそろそろ秋に入ります。ホタルが飛びかい、珍しい野鳥がたくさんいます。クモ・ヘビ・トラ・ヒョウなどが生息し、まったくターザン同様の地域ですが、邦人の方々の真剣な開墾への努力、不屈の闘志にはただただ頭がさがる思いです。もう10年もすればきっとこの苦難はむくわれることでしょう。

近くアルゼンチンに入国して見聞してきます。

(筆者：すずき・ひとすけ、片倉蚕研からパラグアイ派遣中、蚕26)

「パンと恋と夢」

小 林 公 幸

◎実験は現在の私にとって商売の一つである。「自分の好きなことだものイイでしょ。心中する気でやりなさい」ナンテ実験と恋人を一緒にして、シリを叩く人がある。どうも実験と言う恋人はムラ気な奴である。予想どうりの

「ムダ八分」とか言って、そんな場合が多く、とかくそのような時には時間をダラダラと無為にすごしているようにでたまらない。最近専門に使い始めたミクロトーム（電子顕微鏡用超薄切片作製装置）はひどいジャジャウマ美人である。気嫌の悪い時には、汗をボロボロ流しつつなだめてもすかしても言うことをきかないが、一旦調子にのるとすばらしい性能をみせ、うすい切片をつくってくれる。その切片を電子顕微鏡でのぞくと、細胞の微細構造が明らかになるので、文句を言いながらもミクロトームを大切に、まつわりついてもやるのだが、決して好きにはなれそうにもない。

◎多分恋っていいことだろうナーと思う。鳥が空を翔けるように、感情をほびこらせて生きたり、情熱にまかせて人間である限界以上の固い誓をたてたりして。「信州女性っていいよ。イヤな人にもあからさまなイヤな顔をしないから」ナンテ信州を垣間見て来て教えてくれた人もいたが、この5年間恋とは無関係であった。今になってみれば少しは残念に思う。訪問着とか何とか言う和服姿はいい。似合った人の撫肩からサラッとした直線的な姿には悠長な美しさがあると思う。そして感情の求めるのは、こんな情緒的で歴史の哀愴の伴った世界ではなからうかと思ったこともあった。和服姿はいいと言っても、多くの場合見たのは和服であって着ている当人の顔を見たことはないが、顔を見てまれに覚えている人とバッタリ行き交うこともあった。その

結果が得られたり、時も和服姿でいたら、案外片思いの対称を信州に残し得たかもしれないナーと思うが、リンゴのように赤いホッペをし、ミニスカートなんかパーパーとはいったりしていて、現実はまだなんかないものようだ。

◎私に夢ってあるのだろうか。出世主義でみるためには、あまりにも先が見えすぎているし、「ベトナム戦争が終りますように」と言うのもピンとこない。前に私を育ててくれる多くの大人達に対する何の心置きもない感謝の喜びの中で、生活を送れたら幸せだろうナーと思ったこともあった。現実の問題に対する不平と不満のうじうじした中で、時とエネルギーを失って行くには、学生時代はあまりにも惜しいと思ったし、少なくとも単なる反抗心のみで動きまわることにはいかげん疲れたからである。しかし、現在「今の学生達は…」に対し「今の大人達は…」とやり返す無意味なことは避けたい。

人の無心は顔を見る時、人間が騙したり憎んだり苦しんだりみじめであったりすることが不思議に思う。しかし欲と言うものを思う時、人間はどうしたって孤独であり欺瞞とか虚偽とかから解放されるはずはないとも思う。そうかと言って、私自身神とか自然にすべてを委ねて生きられる程に素朴で謙遜な気持で生きているとは思えないし、又自我とか自分の判断力に全面的な信用を寄せることもできないだろう。ここでガタガタ言っても始まらない。今までの生活は、人生の傍観者としての生活、例えば訪問着にしてみているナフタリンのようなもの、これからは自分自身が演技者としての生活、エプロンとお醤油やおミソの匂いのようなものだろうか。その時のことは、その時になって考えよう。夢、どうしても無味乾燥に流れやすい今日の生活、自然と親しめる形で進めたい。

(筆者：こばやし・きみゆき、
繊維農学科大学院生)

888 上田素描

上田市のビジョン

将来の上田市をどのように発展させていったら地域経済力が向上し住民の生活が安定するだろうか。このことは上田市をとりまく近隣町村にも重大な関連をもち、必然的に共通の運命をとらせるものと考え。そこで最近の資料を参考にして将来の見通しを述べてみたい。

上田市の市政施行は大正8年5月。県内では長野、松本について古く、東信地方の中心地として栄えた城下町である。ところが長野、あるいは松本周辺、および諏訪湖周辺にくらべると活気に乏しいという見方が強い。上田が暮しよいというのも気候のためばかりでなく、のんびりしているためかも知れない。

現在中学校の改築工事も完了し小学校の改築が行われている。市民会館、城下町の文化財を守る博物館も完備し教育面では他の市町村より進んでいるらしいが、人口は長野、松本市に水をあけられ、飯田市について4番目。市の面積は18市中14番目。したがって1平方キロ当りの人口密度は、県下最高の919人と愛知県なみ、飲み屋も多い筈である。地方交付税の交付額は18市中で下から3番目、嬉しいことかもしれないが、過密人口と建物のため都市計画も思うにまかせない現状である。

これを解決するには、近隣町村の合併と思い切った都市づくりであろう。現在合併を申し込んでいるのは、川西村、青木村、塩田町、真田町、東部町坂城町である。これが実現すると人口15万の都市ができあがる。国道18号線沿いを工場ベルト地帯とし、菅平、湯の丸高原の観光資源の開発、別所、田沢、沓掛の3温泉街の整備、川西、塩田平を中心とした住宅街づくりなど魅力にあふれた都市となる。しかしこのようなビジョンを画いても要はいかに

具体化するであろう。

多分市当局でも具体的な青写真を用意し、計画に移してゆくと思うが、市役所のみ立派なものを建てても、住民は納得しないと思う。まず第一に上田市に向う道路、交通網など早急に整備し、中心街に人を集めなければ商業の発展は望めない。なお出先機関の合同庁舎など地元負担金で決まっているようではいささか心もとないと思うがどうか。それとともに本学の将来についてもすみやかに計画をたて、一致協力して実行に移してもらいたい。(平林)

長野県蚕業試験場

上田市に新営

長野市岡田の本場と上田公園西側の支場とはこのたび統合され、上田市塩尻中島地籍に新庁舎を建設中である。現在、本館はできあがっているが、全休は43年度中に完成の見込みである。したがって、職員の大部分は旧試験場で勤務しておられるが、上田支場については3月30日に閉場式がおこなわれた。約50年の間、地域蚕業の発展に寄与した功績はまことに大きく、その閉場は名残り惜しい気もするが、新しい進展の光明はこれを補って余りあるであろう。支場のあとは上田公園の一部として総合スポーツ関係施設が予定されていると聞く。

学園あらかると

校内各駅停車

2. 繊維農学科

人の寿命が70才台まで伸びたが、本学科もこれにおよぶ歴史を持ち、幾多の学術的、社会的貢献をなして今日に至っている。人生ならば一応その業務をほぼ終えて、過去をふり返り、これでよかったのかと悟りの境地に入るところであろうが、学問の進歩と後継者養成を担う学府にあっては常に厳正を期さねばならず、時代の推移と共に幾多の体質改善を余儀なくされている。そうした改善につれ内容がさまざまに分岐し、現在は蚕糸農学コースと環境工業生物学コースに分かれ、早急に再編成されることを要請されている。

内容的には前者は桑で蚕を飼うということにとどまらず、学問的には分子生物学的な立場に立って研究が進められ、業との結びつきについては人工飼料育、機械化養蚕の実現化への攻究に一步踏み出した。後者は発酵生産、工業用廃水などの生物利用、工学的な原理と技術を攻究する方向に鋒先を向けた。しかも学部内大半が工学的色彩となり、文部省の方針も農と工を分離する方向に動いているため、目下、学科をどのように改善し、再編成するかを真剣に検討中である。

財団法人上田繊維科学振興会研究成希望者募集

第7回振興会研究助成金交付希望者を次の要領で募集する。

- ① 応募者は5月20日までに振興会理事長あて申請書を提出すること。
- ② 応募者は個人または協同研究とし、ある程度の成果を得ているものとする。
- ③ 研究助成金交付決定は研究助成委員会において選定する。
- ④ 研究助成金は5月末日までに交付する。
- ⑤ 研究助成をうけたものは助成金の交付決定から1年を経過し、6カ月以内にその研究成果を本会に提出しなければならない。
- ⑥ 申請書は本会あて申し込めば送附する。若い層の研究員の応募を希望する。

なお、4年前から大学院修士過程が置かれ、講座は応用動物学、応用植物学、微生物学及び病理学、栽桑学及び土壌学・肥料学、蚕種学及び遺伝学、養蚕学の6つとなっており、生物飼育といった特殊事情があるにもかかわらず、助手定員は3つでこれを教務技官が当たっている。

応用動物学講座

小泉清明（こいずみ・きよあき）教授 京大農卒64才、理博、研究室は旧蒲生研、学域は広いが中心は陸水生態学、水質問題、陸水生産分野にとり組んでいる。国際生物学事業計画陸水部門の主任研究員であり、また国際水文学事業計画利水部門の国内委員会委員、木曾三川河口資源調査団の団長として活躍中。授業科目は水質汚濁論・工場廃水論・公害論・陸水学等である。

桜井善雄（さくらい・よしお）助手、上田織専卒、40才、農博、小泉教授の研究を助け、水質分析実験を補佐している。淡水域の微生物生態、微生物による工業廃水処理などが研究の主テーマである。

他に坂口智嘉子さんと、北村洋子さんが研究の補佐をしている。

武田晃（たけだ・あきら）助教授、九木農（大学院）卒、43才、農博、研究室は旧荻原研、家畜の繁殖に関する生理学的並びに生化学的研究、特に精子の成熟および老化について研究している。昨年、イギリスのケンブリッジ大学へ留学された。授業科目は畜産学原論、繊維動物学など。

山田嘉子さんが研究の補佐をしている。

応用植物学講座

田口亮平（たぐち・りょうへい）教授 九大農（大学院）卒、58才、農博、研究室は旧柳沢（延房）研、現在、クワおよび繊維作物の生理生態学的な研究を行っている。授業担当科目は植物生理生態学および植物生理生態学特論と農業気象学など。

柳沢幸夫（やなぎざわ・ゆきお）教務

技官、上田織専卒、38才、田口教授の研究を補佐すると共にアマの發育ならびに繊維細胞の性状におよぼす環境条件の影響を主テーマに研究している。加藤泰正（かとう・やすまさ）助教授 東大農卒、40才、研究室は農場の東端に位置しており、関研究室と同棟。植物生理学とくにダイズの基礎代謝・無機代謝を主テーマとしておられる。授業科目は、繊維植物学・栽培学汎論・植物実験など。

滝沢秀成氏が研究の助けをしている。

微生物及び病理学講座

松尾卓見（まつお・たっけん）教授、京大農（大学院）卒、48才、農博、研究室は旧林（貞三）研、*Fusarium* 菌群の分類学的、生態学的研究を継続され、現在、カリホルニア大学のW.C. Snyder 教授と日米科学協力研究を推進中で、交換教授として4月15日から渡米される。他に工業用廃水中における微生物とくに糸状菌の生態、生理に関する研究もしている。微生物学、植物病理学、工業微生物学を担当。

片瀬博子さんが研究補佐をしている。古平福紀（こだいら・よしのり）助教授、上田蚕専卒、48才、農博、研究室は旧佐藤（利一）研、広く天然有機化合物の単離、精製を目標に、現在は放線菌の農業活性に主眼をおき、植物病原菌に対する生理活性作用のある菌の検索とその活性物質の単離、精製などを行っている。授業科目は生物化学、微生物工業論、発酵生産学、微生物化学など。

若林昭子さんが実験の補佐にあたっている。

栽桑学及び土壌学・肥料学

矢木博（やぎ・ひろし）教授、九大農卒、63才、農博、研究室は旧化学本館（鉄筋）1階。土壌肥料、水質分析が専門で、現在、桑園における灌水についての研究、松代地震による湧水の水質に関する研究、その他河川の水質に関する仕事をしている。授業科目は土壌肥料学、分析化学、同実験などを担

当している。

山本満寿夫（やまもと・ますお）教務技官、信大繊維卒、26才、矢木教授の研究を助け、水質分析実験、分析化学実験を補佐している。諏訪湖及び木曾三川底質に関する研究を矢木教授の指導のもとに行っている。

関博夫（せき・ひろお）助教授、上田蚕専卒、53才、農博、研究室は学部構内の最東端の桑園中にある平屋の建物。桑属の細胞学的研究、特に倍数性桑樹の育成の研究を重ね、現在、その一部が全国的な普及の段階に至っている。一方、桑萎縮病の抵抗性品種の基礎研究及び桑樹の組織培養なども行っている。栽桑学、植物実験などを担当している。

押金健吾（おしかね・けんご）教務技官、上田織専卒、39才、関助教授の研究を補佐するとともに植物学実験、栽桑学実験実習を指導している。倍数性桑の育成並びに桑樹の組織培養に関する研究を主テーマに仕事をしている。

蚕種学及び遺伝学講座

長島栄一（ながしま・えいいち）助教授、東京農大農卒、43才、農博、研究室は旧佐藤（春太郎）研、専攻した「家蚕幼虫斑紋に関する発生遺伝学的研究」に対し、本年4月日本蚕糸学賞を受賞された。現在はカイコにおける各種形質の発生遺伝学的研究並びに雌雄性に関する研究を主に行っている。授業科目は遺伝学、育種学、生理遺伝学、蚕種学特論などを担当。

武井隆三（たけい・りゅうぞう）教務技官、信大繊維卒、34才、長島助教授の研究を助け、蚕種学実験実習を指導している。研究の主テーマは蚕卵の孵化に関する研究。

養蚕学講座

山口定次郎（やまぐち・さだじろう）教授、上田蚕専卒、63才、農博、研究室は従来通り。カイコの腸における構造と機能が専攻で、最近は病態生理の立場から、ウィルス病における感染機構の解明を無菌飼育、電子顕微鏡など

を用いて行っている。蚕種学、蚕体病理学および同特論などを担当。

小林勝（こばやし・まさる）教務技官 信大繊維卒，36才，山口教授の研究を補佐し，蚕体病理学，蚕種学実験実習を指導している。研究の主テーマはカイコの胚子培養。他に人工飼料育を用いてウィルス病の解明もしている。

竹田寛（たけだ・ひろし）助教授，上田蚕専卒，50才，農博，研究室は旧電子顕微鏡の建物，最近そこにアイソトープ取扱関係の設備を設置した。研究は熟蚕の誘引物質の分離及び誘引に関連する研究，カイコの發育変態に対する音響の影響並びにカイコに及ぼす放射線の影響などの仕事をしている。養蚕学，蚕体解剖生理学などを担当。田中一行（たなか・かずゆき）助手，上田繊維卒，40才，農博，竹田助教授と共にアイソトープ関係の仕事をし，蚕学実験実習，動物学実験を指導している。「カイコその他教種鱗翅目昆虫の皮膚構造に関する研究」で今度東京農大より学位を授与された。

繊維農学科の事務は滝沢晴子さんと西沢貞吉氏が担当。事務室は山口研の一室を改築した旧人工孵化室に設けられている。

附 属 農 場

町田博（まちだ・ひろし）助教授，農場長，上田蚕専卒，54才，研究室は桑園入口の平屋建。しなのぐるみの系統分類，生態学的ならびに栽培学的研究を長年に亘り継続し，くるみについて全国唯一の研究室である。農業科教育法，農学実習を担当。

池田佳子さんが研究の助けをしている。

田中茂光（たなか・しげみつ）助手，農場主事，上田繊維卒，41才，農博，附属農場として機械化養蚕体系に関する経営研究を行っている。この信大方式の自動飼育装置は全国に普及段階となり，養蚕の近代化に役立ちつつある。上原徹助（うえはら・しゅくすけ）助手，大室農場主任，南佐久農蚕卒，60才

大室農場で高冷地における桑栽培，牧草，作物等と環境要因との生産性に関する仕事をしている。

附属農場の事務は市川馬之助氏と宮沢甲子司氏が担当。仕事は矢島西司，増沢静，須崎千歳司，小林幸右衛門，倉島留次郎，柳沢勝人，田中今朝喜の諸氏が当たっている。

昭和42年度卒業式挙行 信州大学繊維学部卒業式は3月10日午前10時から学部講堂で行われた。本年は日曜日によく行事が多い年であったが，今回も卒業生の父兄が例年より多く見え盛大であった。三村一信州大学長より191名の卒業生に証書授与，告示があり，つづいて，柳沢延房繊維学部長が卒業生にはげましの言葉を送り，文部大臣祝詞は信州大学教育学部長井上春雄氏が代読された。最後に螢の光を合唱して卒業生は希望に輝き懐しの学園をあとにそれぞれの職域に雄躍して巣立った。

昭和43年度合格者発表 昭和43年度信州大学繊維学部入学試験は3月23，24日両日行われた。試験場は繊維学部および東京（お茶の水女子大学），名古屋（名古屋大学工学部），大阪（大阪大学教養部分校）の4試験場で行われ，3月31日合格者が発表された。各学科別入学志願者および合格者は次の通りである。

学 科 別	志願者	合格者	倍率
繊維農学科	181名	30名	6.0倍
繊維工学科	347	50	6.9
繊維工業化学科	240	47	5.1
繊維機械学科	285	49	5.8
繊維化学工学科	160	40	4.0
計	1213名	216名	5.6倍

柳沢延房学部長定年退職 柳沢繊維学部長は昭和15年3月上田蚕専専門学校教授勤務以来，その間昭和18年9月から長野高等工業学校教授（現信州大学工学部）に転任，昭和26年再び本学部に勤務，機械学科主任，図書分館長信州大学評議員等要職を経て昭和41年

4月から繊維学部長に選ばれ今日にいたった。今度定年退職され，4月1日から選ばれて長野県短期大学長に就任された。ますますご健康でご活躍をお祈りするしだいである。

白樫侃教授繊維学部長に選任 白樫侃教授は4月1日付信州大学繊維学部長に発令された。白樫学部長は昭和18年東京工業大学助教授に就任以来，東京工業大学に奉職，教育に研究に活躍され，かたわら中央の各種審議会の専門委員を兼ねられ，海外出張は西ドイツ，スイス，イタリア，韓国，台湾等に3回に亘り研究調査に出張，また40年12月には東京工業大学長事務代理をつとめられた。昭和42年4月1日東京工業大学名誉教授に任ぜられ，文字通り繊維工学の権威である。昭和42年4月信州大学教授として繊維学部に来任され今度繊維学部長に選任された。新学部長の手腕に大きな期待をかけるものである。

学科主任等決定 昭和43年度の各学科主任等改選の結果次のとおり決定した。

繊維農学科	田口亮平教授
繊維工学科	荻原清治教授
繊維工業化学科	北条舒正教授
繊維機械学科	一志假夫教授
繊維化学工学科	隅田隆太郎教授
共通学科	小山長雄教授
附属農場長	町田博助教授
図書分館長	会田源作教授
補導委員長（前期）	黒岩茂隆教授
（後期）	石川 博教授

事務職員異動

宮原大正治氏 信州大学繊維学部事務長に発令（前工学部事務長）
白倉 一男氏 信州大学工学部事務長補佐に発令（前繊維学部）
金井 正一氏 信州大学工学部図書分館係長に発令（前繊維学部）
宮下 貴森氏 信州大学繊維学部図書分館係長に発令（前工学部）
小岩井公明氏 信州大学繊維学部教務係長心得に発令（前理学部）

日本生態学会・日本陸水学会開催

上記両学会が大会委員長小泉清明先生のもと当学部主催で開催される。前者は5月31日から3日間、後者は引つづいて3日間おこなわれ、全国から数百名の学者が参集する予定である。両学会が長野県で開催されるのは今回が初めてである。なお、陸水学会のほうでは会場の都合上、諏訪湖畔山王閣が会場としてあてられる予定。

42年度卒業生就職先

繊維農学科

秋田 勉	繊維学部 大学院	小笠原哲也	グンゼKK	川上 千秋	ガデリウスKK
青柳 武夫	静岡県蚕糸KK	押金 信子	長野女子高等学校	川村 長蔵	繊維学部 大学院
井谷 勝	十条製紙KK	金子 俊雄	敷島カンバスKK	木村 通宏	紺藤整染KK
上原 武	KK藤栄商会	小泉 進	田村駒常盤商事KK	工藤 通彦	信州大学工学部
尾和三智子	山印味噌KK	小松 幸博	金二工業KK	久米 徹夫	グンゼKK
大塚 照己	岩手県蚕業試験場	近藤 武夫	艶金興業KK	坂口 英輔	厚木ナイロンKK
金子 博	長野県西筑摩地方事務所	佐津川 玄	田村駒常盤商事KK	酒本 義樹	大阪今同
上垣内郁夫	国立公衆衛生院	沢山 邦男	吉忠KK	島立 孫一	プラタク製糸KK
川崎 平章	神栄生糸KK石岡工場	塩沢 正雄	KK城南製作所	篠原 勝彦	緑川化成工業KK
久野 邦博	日本繊維工業KK	杉浦 勝	美濃繊維工業KK	清水 秀雄	繊維学部三石研究室
小林 進	東京税関	篠崎 弘美	東洋メタライジングKK	新谷 明	名古屋油脂化学KK
小山 詔雄	日精樹脂KK	玉井 米重	帝人加工糸KK	関口 忠雄	日本化学KK
近藤 徹	高知県蚕業試験場	土井 和士	広島県高校教員	高橋 史明	和歌山染工KK
佐々木史郎	長野県養連	常盤真寿夫	マルカKK	所 脩	明成化学工業KK
芝野 愿	KK明成商会	内藤 典	蘇東興業KK	豊島 剛	繊維学部 大学院
清水 治	繊維学部 大学院	中田 建市	吉田工業KK	中島 暎子	〃 〃
寺野 富雄	日本インカKK	中村 明義	利根産業KK	中曾根弓夫	〃 〃
中込 譲治	神奈川県蚕業試験場	西野廣日子	モノマウント織物	西村 邦昭	二村化学工業KK
箱山 晋	九州大学農学部 大学院	二宮 英三	日本製麻KK	野田 猛	東洋繊維KK
花井 聖光	日本製麻KK	野倉 忠好	川島紡績KK	野中富士夫	山久炭素工業KK
松原 極	KK昭和堂	畑 宣則	中部旭紡績KK	広橋 満	繊維学部 大学院
丸山 泰男	繊維学部 大学院	花岡 昌和	世紀紡績KK	藤井 恒男	進学
目黒 和雄	神奈川県蚕業試験場	服巻 昌平	佐賀板紙KK	古畑 忠男	アガツマ精機KK
森泉 節江	埼玉繊維KK本庄工場	肥後 庄一	堀田産業KK	宝永 嘉男	繊維学部 大学院
和田 秀夫	市川工業KK	藤井 清英	都築紡績KK	前島 拓夫	堀田産業KK
繊維工学科		藤木 信夫	日本ビニロンKK	松田 芳穂	富山化学工業KK
天沼 清治	片倉工業KK	藤田 武久	倉毛紡績KK	村上 幸子	帝人KK
板倉 紘三	信仰インテリアKK	古川多磨夫	横井製絨所KK	森本 丘利	信濃毎日新聞社
伊藤 俊文	東邦レースKK	馬淵 洸	日本繊維工業KK	横沢 道明	日本エステルKK
井上今朝雄	鐘通工業KK	村山 定光	帝人KK	吉見 昌治	日本不織布KK
岩井 具美	亀山製糸KK	山口 徹	石川県県職員	米本 正	日本油脂KK
宇佐美民夫	大東紡織KK	山崎 茂樹	計測器工業KK	渡部 豊	昭和インク工業KK
大堀 淳	持田商工KK	山崎 英和	自営	繊維機械学科	
		山田 泰宏	サイボーKK	有本 俊克	自営
		乾 秀雄	厚木ナイロン工業KK	池田 明文	KK椿本チェーン製作所
		江尻 公機	大和紡績KK	池田 憲治	計測器工業KK
		風間 武彦	特許庁	市野 勝正	日本トムソンKK
		遠山 紘司	大阪大学基礎工学部	伊藤 国雄	ワシノ機械KK
		繊維工業化学科		伊藤 健雄	東洋工機KK
		青山 明子	繊維学部 大学院	井上 統允	繊維学部 大学院
		畔上 政治	カロリナKK	伊部 信州	日精樹脂KK
		市川 信三	垣内商事KK	内山 豊国	大阪アルミニウムKK
		大和 公子	東洋パルプKK	太田 豊和	敷島カンバスKK
		岡嶋 宏司	自営	海沼 正邦	藤倉ゴムKK
		落合 武次	繊維学部 大学院	加藤 泰	ヤマカ工業KK
		金沢 正善	東洋メタライジンKK	久保 進	富士機工KK

倉科 靖宜 石川島芝浦機械KK
幸野 晴夫 東邦レースKK
佐藤 紘 日本ビニロンKK
里見 茂 帝国産業KK
部 英二 繊維学部一志研究室
白沢 秀則 " 高木研究室
鈴木 勇 愛三工業KK
武田 秀助 繊維学部 大学院
種谷 剛 理研鋼機KK
塚越 正治 東京特殊電線KK
徳永 重徳 日本織物加工KK
長尾 勇 大同毛織KK
中島 幹夫 航空自衛隊
永野 洋二 酒井製作所
野間 敬吾 敷島紡績KK
原田 正隆 豊実工業KK
藤井 直 繊維学部 大学院
藤本 功 " "
前川庄一郎 KK芝浦製作所
前田 建夫 櫻山プレス
増成 政三 自営
水本 博晴 新大阪造機KK
緑川 利幸 信大工学部 大学院
宮下 俊明 KK巴川製紙所
村田 武文 アガツマ精機KK
百瀬 嘉英 プラ拓製糸KK
森 蒙 京都機械KK
森田 武 仁丹テルモKK
蔽 明 後藤鍛工KK
山口 広二 三和紙工KK
山本 忠雄 大東製機KK
李 成一 繊維学部 大学院
渡部 昌志 林紡績KK
繊維化学工学科
青木 五郎 寺岡製作所
青沼 秀彦 信越化学工業KK
秋山 境 宇部化学KK
蛭川 茂男 キセイ薬品工業KK
池田 利三 日本漁網船具KK
井山裕三郎 東京特殊電線KK
伊藤 文彦 緑川化成工業KK
尾坂茂登己 日本カーリットKK
小田 睦司 正織興業KK
菊地 祐生 日本織物加工KK
見学和三郎 倉敷紡績KK
児玉 和雄 花咲繊維工業KK

小林 幸夫 田中貴金属工業KK
小林 良一 タキロン化学KK
後藤 勝洋 並木ナイロン工業KK
後藤 修一 日本オイルシール
工業KK
鈴木 勝也 神戸屋KK
鈴木 孝郎 厚木ナイロン工業KK
竹嶋 幹夫 繊維学部 大学院
田中 武敏 自営
寺田 栄一 "
出垣 仁志 "
中北 正信 高分子化学工業KK
西沢 邦宣 プリヂストンタイヤKK
早川 誠 愛知紡績KK
平野 莊二 日本フィブリットKK
平野 英明 日製産業KK
古市 義和 信越電線KK
古田 和男 新日本化学工業KK
堀 光夫 豊美工業KK
松川 共栄 富山化学工業KK
松原 寛彦 オリオン化成KK
水口 裕敬 東洋化学KK
両角 宏明 大阪有機塗料KK
山田 博 興国人絹パルプKK
若林 尚武 ベプシュローKK
渡辺 修三 緑川化成工業KK
渡辺 勝男 中央製毛KK

昭和43年度大学院入学者

繊維農学専攻

清水 治 (信州大学繊維学部)
秋田 勉 (")
丸山 泰男 (")
箱山 晋 (")

繊維工学専攻

坂本 敏夫 (信州大学繊維学部)

繊維工業化学専攻

青山 明子 (信州大学繊維学部)
小笠原健二 (")
落合 武次 (")
川村 長蔵 (")
豊島 剛 (")
中島 咲子 (")
中曾根弓子 (")
広橋 満 (")
宝永嘉男 (")

山本 静護 (")
村田 一之 (信州大学文理学部)
繊維機械学専攻
井上 統允 (信州大学繊維学部)
武田 秀助 (")
藤井 直 (")
藤本 功 (")
李 成一 (")
繊維化学工学専攻
竹嶋 幹夫 (信州大学繊維学部)

昭和43年度入学試験合格者

繊維農学科 (27名)

井田 孝茂 京都(加 悦 谷)
入江 広明 兵庫(姫 路 東)
内田 則正 大阪(生 野)
大橋 通成 兵庫(加 古 川 東)
落合かず子 長野(長 野 西)
嘉生 博子 " (")
蟹江 英彦 愛知(桜 台)
木村 健治 大阪(鳳)
国枝 次郎 岐阜(大 垣 北)
窪田 一仁 " (大 垣)
河野のり子 長野(松本 蟻ヶ崎)
高見 修 埼玉(熊 谷)
竹重 修司 長野(上 田)
田中 康司 大阪(阪 南)
中垣 雅雄 愛知(向 陽)
中谷 恵一 奈良(郡 山)
永田 泰雄 愛知(豊 田 西)
船田真由美 長野(松本 深 志)
細田美恵子 " (伊那 弥生ヶ丘)
松井 正文 " (上 田)
三好義千代 大阪(和 泉)
望月 孝雄 静岡(富 士)
山岸 研一 長野(丸 子 実 業)
山口 武 " (上 田)
山崎 信幸 " (屋 代)
米谷 力 奈良(奈 良)
若嶋 清人 兵庫(尼 崎 東)
繊維工学科 (46名)
浅岡 真一 長野(松本 県ヶ丘)
安部 紀光 島 根(隠 岐)
井内 利幸 兵庫(姫 路 東)
榎本 浩和 和歌山(新 宮)
太田 時雄 愛知(名 古 屋 西)

小口 明	長野(諏訪清陵)	井出久美子	長野(野沢北)	岡村 豊	長野(大町)
金子 守男	愛知(時習館)	伊藤 信孝	北海道(北見北斗)	小布施敦久	〃(須坂)
北浦 好一	和歌山(伊都)	大沢あき子	長野(上田染谷丘)	川村 恵彰	静岡(静岡東)
北沢 修治	長野(赤穂)	大沢 一朗	兵庫(白陵)	木村 元樹	長野(上田)
北沢 素夫	〃(長野)	太田 稲子	岐阜(関)	高坂 実	〃(屋代)
北谷 和章	香川(丸亀)	大西 喜造	大阪(佐野)	小林 茂樹	〃(長野吉田)
工藤 成美	長野(長野西)	小川 英治	三重(海星)	小林 利一	大阪(東住吉)
栗林 和子	長野(上田)	荻田 俊一	大阪(高津)	斉藤 政行	長野(松本県ヶ丘)
小池三喜夫	〃(諏訪清陵)	鍵谷 徳治	〃(生野)	酒井 健一	〃(長野工業)
小寺 隆一	大阪(大阪工業大学)	川勝 哲	京都(立命館)	阪口 光司	大阪(泉陽)
小林 利夫	長野(長野吉田)	窪田 敏克	岐阜(中津)	阪田 政和	兵庫(県立龍野)
小林 是則	〃(屋代)	黒岩千恵子	長野(長野西)	島川 正建	徳島(城南)
坂本 修	鳥取(八頭)	甲田 能法	茨城(土浦第一)	高木 直夫	岐阜(大垣北)
佐藤 猛	大阪(寝屋川)	木本 秀一	兵庫(神戸)	田沢 明德	長野(屋代)
佐野 和男	愛知(西尾)	小林 長夫	長野(屋代)	谷口 正博	兵庫(県立山崎)
清水 正容	長野(上田千曲)	田中 茂	大阪(豊中)	中川 貞夫	滋賀(虎姫)
杉浦 清治	岐阜(岩村)	田丸 敏明	〃(東住吉)	中沢富美雄	長野(上田)
菅沢 守	長野(大町)	中条 芳樹	兵庫(西宮東)	中村 秀美	長崎(島原)
高沢 喜一	長野(須坂)	辻田 和彦	愛媛(新居浜西)	仲吉 安隆	大阪(春日丘)
高塚 浩剛	静岡(浜松城北工業)	出山 卓良	千葉(千葉工商)	嶋本 博史	山口(高水)
武田 正剛	長野(松本工業)	藤井千恵子	長野(長野西)	西坂 光正	島根(益田)
竹前 茂	〃(長野工業)	中尾 悦郎	広島(尾道北)	野田 泰造	岐阜(岐阜山)
谷口 真澄	鳥取(鳥取西)	中嶋 和彦	大阪(桃谷)	橋村 康広	京都(嵯峨野)
田村 裕	長野(上田)	中島 隆	長野(屋代)	深沢 悦治	長野(松本県ヶ丘)
徳永 達夫	〃(須坂)	中畑寿美子	〃(諏訪二葉)	福本 照久	大阪(箕面)
中島 和広	愛知(刈谷)	仲村 寛	大阪(市岡)	丸山 健二	兵庫(県立兵庫)
中村 宗知	長野(上田)	中山 悦昭	大阪(生野)	水野 貞男	愛知(松陰)
西岡 孝彦	香川(高松)	長山 淳哉	高知(高知追手前)	峯村 道敏	新潟(高田北辰)
西山 保男	長野(長野)	原田 和子	長野(諏訪二葉)	向井 省二	広島(三原)
能勢 健吉	兵庫(出石)	森川 道雄	長野(松本県ヶ丘)	村田 広	石川(錦丘)
林 俊二	東京(城北)	八木 貞文	神奈川(厚木)	森野 康司	大阪(金蘭千里)
日野 博明	長野(上田)	安田 純	愛知(名古屋)	山岡 俊二	福井(藤島)
福島 豪	大阪(山本)	柳 昭一	長野(松本県ヶ丘)	山岸 秀樹	長野(屋代)
福田 隆行	〃(今宮)	吉田 博司	静岡(浜松西)	山崎 隆夫	石川(七尾)
松田 宗万	奈良(畝傍)	吉田 雅雄	神奈川(小田原)	山本 勉	奈良(郡山)
松本栄一郎	石川(金沢桜丘)	繊維機械学科 (47名)		吉澤 秀樹	長野(松本県ヶ丘)
望月 善夫	大阪(今宮)	安部 雅三	石川(羽咋)	和田 吉弘	大阪(高槻)
森 竹典	愛知(一宮)	池見 斎	大分(舞鶴)	繊維化学工学科 (38名)	
薬師神忠市	愛媛(野村)	石川 英治	愛知(桜台)	石山 正泰	大阪(高津)
山神 泰	大阪(清水谷)	石丸 忍	島根(松江北)	猪爪 孝一	長野(松本県ヶ丘)
山下 幸二	福岡(明善)	磯部 暁	愛知(名古屋西)	岩田 隆	長崎(長崎東)
繊維工業化学科 (39名)		井上 英夫	〃(東海)	大石 節子	静岡(掛川西)
青柳 一男	山梨(甲府第一)	入沢 徹	〃(昭和)	小野 要二	〃(伊東)
朝山 勉	大阪(明星)	岩井 章	長野(松本県ヶ丘)	金井 良光	長野(上田)
井奥 高夫	〃(鳳)	岩井 素夫	兵庫(県立芦屋)	神谷保徳	愛知(刈谷)
石井 典子	香川(高松)	大平 加宣	高知(追手前)	久世 治成	三重(津)

柳沢延房先生退官記念品募金

謹啓 陽春の候益々ご清祥の段賀し上げます。さて柳沢延房先生には昭和43年3月末日をもって信州大学より停年ご退官になられました。先生は極めてご健勝で、ご退官ののちも長野県短期大学の学長として一層のご活躍が期待されておりますが、通算20数年の長きにわたる信州大学のご生活に終止符を打たれましたこの機会に、知友、門弟相はかり先生のご多年のご功績にたいして感謝の微意を表するため、下記要領により記念事業を計画いたしました。時節柄諸事ご多端の折、誠に恐縮ではございますがこの趣旨にご賛同賜わり、ご協力お願い申し上げます。

柳沢延房先生退官記念品募金会委員代表

信州大学繊維学部
繊維機械学科主任

一 志 淑 夫

記

1. 記念事業 記念品贈呈
2. 募金方法 1口 500円以上
3. 募金期間 昭和43年8月末日まで
4. 払込方法 なるべく振替口座東京43341をご利用下さい。
(柳沢先生退官記念代と明記して下さい)

小林 綱子 長野(長野西) 堀田 善行 富山(富山東)
佐野 連雄 愛知(時習館) 松井 直行 奈良(奈良)
柴田 哲郎 三重(津) 松本 利夫 大阪(和泉)
高橋 伸治 兵庫(市立西宮) 丸山 善嗣 長野(松本県ヶ丘)
竹内 猛 大阪(山本) 三戸 純 兵庫(県立西宮)
田中 孝資 滋賀(膳所) 宮崎 進司 三重(神戸)
田中 広 長野(野沢北) 三好 民雄 広島(尾道北)
富川 利英 大阪(北野) 村岡 和幸 " (崇徳学園)
中島 一志 兵庫(姫路東) 矢野 重夫 長野(野沢北)
中山 啓市 " (卸影) 山内 光康 愛知(東海)
長嶋 輝夫 東京(北多摩) 山田 泉 新潟(明訓)
樋口 照雄 神奈川(横須賀) 山村 一郎 " (新潟)
藤松 仁 長野(松本県ヶ丘) 山本 敏博 愛知(春日井)
古川 淳二 三重(上野) 和阪 省三 大阪(東住吉)
別所千穂子 鳥取(米子東) 渡辺ヒデ子 長野(長野西)

支会だより

宮城支会だより

例年11月に開いていた支会総会が、今年は本部総会の後に、その出席者から、本部の様子を聞きながら開こうというので、師走の9日、仙台市内翠風荘で開かれた。通知を出した者29名のうち、下記の17名の参集があり、会は東家支会長のあいさつに続き、会計報告、本部総会出席報告、記念写真撮影と進み、宴会に入って、自己紹介、寄せ書き、役員の互選等を行い、盛会裡に終ることが出来た。

今回の特徴は、今までより老先輩の顔が少なく、参集者の年代が10年位若くなって、エネルギーが旺盛した感じであったことと、本部総会出席報告で学園や上田周辺の空気を感じ取ることが出来、同じ釜のめしを喰った者同志の「気安さ」「きずな」というようなものを味わうことが出来たこと等ではないかと思はれる。

宴会はまことに賑やかであった。お互いの自己紹介を次々ながら盃を重ねると、自然に昔の寮歌、応援歌が飛び出し、年に1回歌えるなつかしい歌だと思えば、一層熱が入ったものである。特に、中高年層のパパは、気合いが入って、よかったが、後遺症が残りはしないかとハラハラさせられた。東邦アセチレン鈴木先輩の御寄進もあ

特許・実用新案・意匠・商標

出願・訴訟・鑑定

浜 特 許 事 務 所

東京都港区新橋1の15の4
堤第一ビル4階
東京(591) 0764・0765

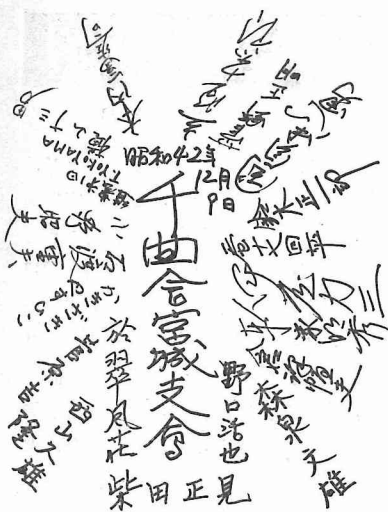
弁 理 士 浜 香 三
弁 護 士 中 猪 之 助
千曲会員 福 島 鋼 治 郎

海外に飛躍する

北野建設株式会社

取締役社長 北 野 次 登

長野市県町524 電代(2)1201
東京都中央区銀座1の5北野ビル 電大代(562)2331
大阪市北区堂島浜通り1の25新大阪ビル 電代(344)2366
松本・高田・ジャカルタ



って、酒が尽きなかったため、一人として帰りをいそぐ者もなく、長時間に亘って、歓を尽すことが出来たことを報告する。

出席者 伊藤力三(蚕17)、国貞忠男(糸15)、石渡重夫(糸28)、柴田正見(蚕32)、本内富佐司(学蚕1)、東家明秀(糸19)、菅原吉隆(糸33)、倉沢恒夫(蚕20)、柿崎泰彦(蚕29)、西山久雄(蚕36)、横山十三男(学蚕10)、菅野正明(蚕別4)、野口活也(蚕13)、森泉文雄(農2)、立野小太郎(蚕37)、鈴木正一郎(蚕22)、小野昭夫(蚕35)。

新役員 支部長東家明秀、幹事尾崎宗敏、石渡重夫、柿崎泰彦、菅原吉隆
支会連絡先

宮城県名取市飯野坂北沖75

宮城県鶴岡市検定所 菅原 吉隆

蒲生先生久しぶりの来松

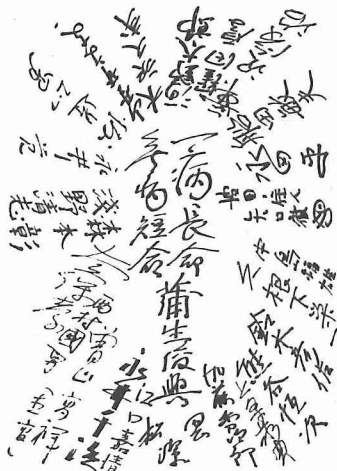
旧臘8日農林省蚕試中部支場長さんから蒲生先生来松の連絡を受け、同支場の水沢さん、片倉研究所の窪田さんと3人で幹事役を受け、比較的松本市に近い千曲会員のみなさんに連絡をし、ささやかではあるが松本郊外の悟三荘にご多忙な先生のお出でを願ひ同志一堂に会し懇親会を開催した。

先生の来松は全く久しぶりで、何時もと変らぬお元気なお姿を拝見し、若者をしのご母校に対する情熱を吐露され、集る会員も先生のお話にヤンヤの

かっさいを送り、経時をしのび一桁の先輩も二桁の先輩も、私共の如き若輩も時を忘れ場所も忘れて懐旧に話を咲かせた。酒間小生が司会者となり会員の一人一芸に興を盛り上げ斗酒辞せぬ豪の者も寸酌でアウトの先輩も先生を囲み高歌放吟をなし最後に全員で先生の今後のご健康をお祈りし、なつかしい校歌を斉唱し夜8時30分解散した。

温故知新と云う言葉を今回ほど身を感じた事はなく、お互いの心の中に蒲生先生に師事した遠い昔の上田時代をよみがえらせ、時と距離が離れても思ひ出は何時迄も変わらず互いの心の中に存在することを、しみじみと感じさせられた数時間であった。

願わくは先生も壮健で今後のご健闘を祈るや切である。(矢口徹記)



上小支会総会だより

早春とはいいいながら信濃路には残雪が見られる2月24日午後2時、上小支会総会が上田市繁華街万菊で開催された。今日は会員のなかに他の行事と重複して都合のつかない旨の連絡が多かったので出席者もはたしてどうかと心ひそかに案じていたが、幸いご元気な倉沢美德先生を始め新進の会員の出席も多く40名と盛会であった。会は倉沢秀一副支会長の司会によって、池田俊郎上小支会長から支会の活動状況、抱負について挨拶があり、ついで竹内彦保幹事長から会務報告ならびに会計報

告があり拍手で承認された。つづいて関博夫理事から第28回定期総会で決定した定款変更その他協議事項について説明があり、更に支会の要望で学部の内容を、北条舒正先生から繊維工業化学科、繊維化学工学科の現況を、小林尚一先生から繊維工学科、繊維機械学科の近況内容等詳細な説明をいただいた。学生の就職状況は各学科とも完全就職決定し、入学志願者もベビーブームの影響もさることながら繊維工学科の6.94倍を初め平均5.62倍と活況を呈している。以上学部だよりの次に議題の支会運営について主な財源である会費の納入向上を期すこと、会員名簿の作成について10月発行予定の本部計画に全面的に協力すること、および会員名簿に会社の広告を転換することをきめた。終って懇親会は和田先輩の乾盃の音頭が始まり、会員の消息、思い出話など宴はいつ果てるとも知らぬ盛会であった。名残りつきぬうちに午後6時山口本会顧問の音頭で千曲会の万才を三唱して散会した。

森の石松会の例会

7年前「あれからの旅路」刊行を記念して毎年1回会合をもつことにしたが、この両3年は欠席者もぼつぼつであるようになった。今回は私が世話人で鳳泉閣で例会を開いた。人間は生身のからだ、やれるときにやっておかねばならぬことを痛感する。この7年間に1~4回卒生でたしか10余名は他界していると聞く。私の財布の内身と同様減るとも増えはせぬ。悪友相集う、又楽しからずや。(戸倉八峰)



本部だより

常務理事会開催

2月3日千曲会館において常務理事会を開催した。出席は小林運美理事長、田口亮平副理事長、山口定次郎顧問、井沢喜三、香山清和、竹内善吾、和田晋、田口玲、西沢正一、小林尚一、北条修正、関博夫、松沢秀二、白井要範の各理事で、小林運美理事長が議長をつとめ、昨年11月23日の第28回本会総会で理事会に一任された事項について審議した。

(1)常務理事については定款で10人以上15人以内と定めているので学内理事および上小支会理事計15名を常務理事とすること。

(2)会員名簿の発行については規格はB5版とし横書き、卒業年度別を主に支会別官庁会社別を附録する。動静を正確にして、勤務住所の不明会員をなくすること。電話番号を入れるようにする。11月の総会には発刊配本出来るようにする。会員名簿の会社広告募集については主として支会の斡旋による

こと。広告料は一頁(21.5cm×14.5cm)でも次期総会に提出することにより8000円、1/2頁(10.5cm×14.5cm)4,000円とし、外にクラブ1/2頁広告は20,000円とする。支会に協力依頼を出すこと。会社にも協賛広告がた依頼状を出すこと。

(3)母校火災復興資金の処理について、厚生部活動に使用することをめどにその処理を理事長又は副理事長から学部長に申し入れる。1月末現在3,127,580円を定期預金してあるが、これを基

本金としてこの利子を厚生部の活動資金とする案。

(4)千曲会報発行について千曲会報の内容充実にもなって頁数、紙質等増し発行費が予算より著しく増加している。予算の追加更正をし次の理事会に提案すること。

(5)支会交付金について、現在支会が扱っている会費に対しては納入会費の30%を支会交付金とし還元しているが支会を経由しないで直接本部に納入する会費についても10%を支会に還元交付することについては次期総会に提案することになった。

(6)その他、支会の区域が複雑なところもあるので一部支会の編成替につい

動静部委員会開催

3月4日動静部委員会開催する、出席者は松沢秀二理事外各学科から動静部委員出席し今秋10月発刊予定の千曲会員名簿について協議した。名簿の規格はB5版(25.8cm×18.5cm)横書約400頁の予定。卒業年次別を主に支会別、官庁、会社別を付録する。各学科クラスから3名位をクラス動静連絡委員になっていただき本部から原稿を送るので異動について訂正して送り返してもらい正確な動静の名簿とする。名前だけで勤、住所不明会員のないようにする。

千曲会報編集委員会開く

3月30日編集委員会を開催、小山編集長外各委員出席して会報No.169号編集について協議。卒業、入学と学園記事の多い号として内容充実を計る。予算を越えるのが悩みだが会員の唯一の連絡機関であるから立派な千曲会報の編集とする。

会 員 動 静

三輪 貞徳 蚕 13 (T15) 静岡 静岡県浜松市芳川町746の1
山本友之丞 蚕 15 (S3) 宮城 (住) 仙台市通町2-15-29 勤前のとおり
浜村 一彦 蚕 19 (S7) 北信 長水蚕業技術指導所長(長野市県町)
鷹野 貞雄 蚕 20 (S8) 更埴 長野県更埴農業高等学校長(長野市篠ノ井)
宮沢 伝 蚕 26 (S14) 北信 長野県庁農政部署系課技幹(長野市南県町)
滝沢 昌一 蚕 26 (S24) 東京 国際機械振動研究所東京支社取締役営業本部長兼東京支社長(東京都港区西新橋3-19)(住) 東京都練馬区高野台525-11
菊地 六郎 蚕 27 (S15) 山陽 グンゼ蚕種事業部(東京都綾部市青野町)(住) 綾部市青野町西青野9
松田 栄 蚕 27 (S15) 山陽 (住) 広島市翠町

1547-1 県公舎1-103 勤前のとおり

水口 米雄 蚕 28 (S16) 北信 長野県庁商工部振興課長 副参事(長野市南県町)(住) 長野市西長野68-8

松林 元一 蚕 28 (S16) 兵庫 神戸大学農学部園芸農学科(神戸市灘区六甲台町1)(住) 神戸市垂水区南多聞台7-1 明石舞子団地C46-115

清水比呂夫 蚕 28 (S16) 安筑 中信労政事務所長(松本市大手1-4-3)

外村 吉高 蚕 28 (S15) 上小 上田第一中学校(上田市)

山崎 千春 蚕 30 (S17) 北信 長野県庁企業局管理室室付(長野市南県町)

渡辺 義人 蚕 31 (S18) 北佐久 浅間中学校(長野県佐久市岩村田)

米沢弥吾夫 蚕 33 (S21) 北佐久 長野県蓼科高等学校(長野県北佐久郡立科町)

馬場 忠貞 蚕 34 (S22) 群馬 蚕種協同組合千曲

社前橋出張所所長（前橋市江田町字諏訪前）
 中島 弘 蚕 35 (S 23) 愛 知 カロリナKK名古屋
 営業所（名古屋市東区赤荻町3-33（住）愛知県丹
 羽郡扶桑町高雄字畑尻212
 神津 昭 蚕 36 (S 24) 上 小 長野県丸子実業高等
 学校（長野県小県郡丸子町）
 福島 義衛 蚕 37 (S 25) 北佐久 小諸東中学校（長
 野県小諸市）
 塚田 修一 蚕 38 (S 26) 埼 玉 （住）埼玉県秩父
 市日野田町2-10-3 勤務前のとおり
 篠原 宏 蚕 38 (S 26) 北 奥 片倉工業KK千厩
 工場（岩手県東磐井郡千厩町脇谷6）
 上原 勇作 蚕 4 (S 31) 北佐久 北御牧中学校（長
 野県北御牧村）
 宮沢 左門 学織12 (S 39) 愛 知 鐘淵繊維KK蚕糸
 研究所（愛知県春日井市上田楽町2615）
 村本 茂樹 学織13 (S 40) 山 陽 岡山大学農業生物
 研究所（倉敷市住吉町736）（住）倉敷市南町5-13
 井上敬一朗方
 榊部 忠一 学織14 (S 41) 兵 庫 猪名川繊維KK
 （自営）兵庫県尼崎市東園田町8-68
 横井 武紘 学織14 (S 41) 愛 知 豊榮毛織KK

（住）愛知県海部郡佐屋町内佐屋
 宮下 敏男 農 1 (S 22) 上 小 東部中学校（長野
 県小県郡東部町）
 大森 武 農 2 (S 23) 東 京 農林省農水産技術
 会議事務局熱帯農業研究管理官（東京都千代田区波
 ヶ間2-1）（住）埼玉県北足立郡北本町大字荒井70
 両角 義人 農 36 (S 24) 上 小 武石小学校（長野
 県小県郡武石村上武石）
 土生 昭二 糸 22 (S 10) 熊 本 片倉工業KK熊本
 工場長（熊本市田崎町340）
 上兼 崇宏 糸 23 (S 11) 群 馬 日本電建KK前橋
 支店（住）群馬県高崎市飯王町1365
 永野 裕貞 糸 32 (S 19) 佐 信 長野県庁総務部管
 財課長（長野市南県町）
 尾和 敦 糸 34 (S 22) 上 小 上田第一中学校
 （長野県上田市）
 滝沢 隆夫 糸 34 (S 22) 上 小 東塩田小学校（長
 野県小県郡塩田町吉安會）
 田中 重臣 学糸2 (S 29) 熊 本 九州農政局構造改
 善部振興第3課（熊本市2の丸1-2）
 茅野 英一 学糸2 (S 29) 上 小 丸子中学校（長野
 県小県郡丸子町）



皆様の百貨店

上田・中央

もほてりや

信大教科書
 自然科学書

工学書協会特約店
 株式会社 西 沢 書 店
 上田原町 TEL 0024

千曲会員名簿発行のお知らせ

今秋10月の予定で千曲会員名簿を完刊することに決定し目下編集準備中であります。正確な動静を得て立派な名簿を発行したいと計画していますから次の点絶大など協力をお願いします。

1. 勤務場所・住所・町名変更のある場合はその都度お知らせ下さい。
2. 同じ職場の会員名住所も知りたいのでお知らせ下さい。
3. 名簿発行要領は規格B5型、横組、8ホ（25.8cm×18.5cm）約400頁。

卒業年次別を主に支会・官庁・会社別も付録します。頒布価格は500円の予定、なるべく支会を通じてお申込み下さい。

昭和43年4月1日

会員名簿発行委員

原画を謹呈します

本号第1頁所載の「万座寸描」の色紙原画を希望者に謹呈します。申込み要領は前号（168）と同じ。ただし申込み希望者は43年度会費完納者にかぎりります。

前号の「猿児二態」申込み多数のため、は厳正抽せんの結果、下記の方が当選されました。

今村覚治 埼玉県大宮市天沼町2-516（糸22）